

演劇レーベル Bö-tanz 第 40 回公演台本

20150705 暫定完成版

UNBREAKABLE

アンブレイカブル

第二章

— 瞼を閉じることで見えてくるもの —

【元殺し屋（ヒットマン）・樋村克爾の章】

作・はなださとし

本作品はあからさまにフィクションです。
この物語に登場する人物・団体……ばかりではなく、建築物や科学技術、
そして災害を含むいかなる自然現象その他もろもろ
すべてが空想の産物であり、
実在のものとは一切関係ありません

登場人物

〈三人の殺戮天使〉

秦 博(はた・ひろし):元セクハラ准教授

殺戮天使。グリゴリをも殺戮可能な〈アマダスの弾丸〉の創成する力を持つ。東日本技術科学大学(技科大)理学部地学科の元准教授。

棚橋 晃(たなはし・あきら):元悪徳警官(警部補)

殺戮天使。元警察官(留置場看守)。留置されたヤクザに便宜を図った不祥事で処分を受け退職。なお、その特殊能力(魔法)は不明。

樋村 克爾(ひむら・かつじ):元殺し屋

〈殺戮天使〉。千里眼魔法〈天空の目〉を持つ。かつては極悪ヤクザ組織、友誠会石間組お抱えのヒットマン(殺し屋)だった。

〈壬生法律事務所の職員達〉

壬生 匡子(みぶ・きょうこ):悪徳弁護士(壬生法律事務所の所長:ボス弁)

自称「悪徳弁護士」だが、壬生法律事務所の所長(ボス弁)は仮の姿。グリゴリを抹殺するために地上に墮とされた天使〈殺戮天使〉のひとりだ。〈グリゴリ〉を識別する魔法〈イントロスコピー〉を持つ。

但峰 大介(ただみね・だいすけ):壬生の部下の勤務弁護士(イソ弁)

壬生法律事務所のイマイチ融通の利かない勤務弁護士(イソ弁)。つーか、弁護士の仕事はしているのか？

大念 楓(だいにん・かえで):壬生の秘書兼助手

壬生の秘書兼運転手。残念ながら弁護士ではなく法律にも疎い。しかし、何故だかドライビング・テクニクだけは秀逸。

〈友誠会石間組の方々〉

滝野 雅哉(たきの・まさや):友誠会石間組・若頭 石間興産・総務部長

若頭として、組を仕切っている。極めて知的なインテリヤクザ。何故か、指人形(腕人形?)の操作に長けている。

石間 龍雄(いしま・たつお):友誠会石間組・組長 石間興産・代表取締役

石間組の組長。愛犬パピヨンのことをこよなく愛す。愛人のタミエを殺されたというのに、パピヨンちゃんがいれば寂しくなんかないの。

〈グリゴリ:原型(アーキタイプ)〉

アルマ(正しくは、アルマロス)

ガーリィで小悪魔風の女の子だが、グリゴリの先導者のひとりである。すべての魔術を無力化する能力〈護符(タリスマン)〉を持つ。彼女自身はそれを〈チャーム〉って可愛く呼んでるけどね。

サタナイル【映像出演……いや、縫いぐるみ出演？】

グリゴリ墮天の際に、すでに天の裁きを受けていたと伝えられるグリゴリ。

アサエル・朝井悟【声の出演】

東亜建設コーディネーター。樋村の銃弾で葬られた。

〈その他の登場人物〉

辻井 純奈(つじい・じゅんな)

ホワイテラスってラウンジのキャバ嬢。朝井悟(アサエル)の愛人。

辻井 純鈴(つじい・すみれ)【映像および声の出演】

純奈の娘。小学校2年生。

有馬 嘉剛(ありま・よしたけ)

謎の殺戮天使。オムニコグニション、すなわち〈全知〉の能力を持つ。

シナモロール(屍南無巻)

解散したレディース「惨璃悪(サンリオ)」の副長

マイメロディ(魔威旋律)

「惨璃悪(サンリオ)」の親衛隊長

ハローキティ(鬼帝)【映像および声の出演】

「惨璃悪(サンリオ)」の総長(あたま)

旧約聖書偽典〈エノク書〉によれば、
かの〈大洪水〉は天界に背いて地上に降臨した 200 人の墮天使を殲滅する目的で
行われたのだという。

これら裏切り者の墮天使の一団はグリゴリと呼ばれていた。
グリゴリ達は人間の娘を娶って子をなしただけでなく、
禁断の知識である〈魔術〉までも地上の人々に伝えた。
これら〈魔術〉の恩恵により、人々は豊かな生活を手にすることが出来たが、
同時に地上には富を奪い合う争いと
その結果としての貧困や饑餓が溢れることとなった。

地上の平和を取り戻させるべく、
天界は幾度となく天使をグリゴリ達の暗殺者として地上に送り込んだのだが、
その努力はなかなか報われることはなかった。

更に大きな問題とされていたのが、
グリゴリ達が人間達に教えた秘術の中に〈ネフィリム〉と呼ばれる
エネルギー創成技術が含まれていたことだった。
〈ネフィリム〉は単なる石（＝ウラヌス）を莫大なエネルギーへと変換する
極めて有益な〈魔術〉である反面、
人間達が取り扱うには危険すぎるものと危惧されていたのだ。

〈ネフィリム〉は人類の手に負えるものではない
——それが天界の下した最終判断だった。

そして、
〈ネフィリム〉を用いて巨大なエネルギー創成装置を作り上げた
グリゴリ達と人類に向け、
かの〈大洪水〉は引き起こされたのだ。
グリゴリを暗殺するために天界から送り込まれた〈天使達〉には
一切警告を発することなく……。

0. 理由はともあれ、あの〈前説〉が復活したようだ

池袋シアターグリーン、Base Theater。

開演間近のステージに、一人の男が転がり出る。

前回の公演はうっかり（というか、都合がつかず）見逃してしまったために、良くは分からないのだが、この〈前説男〉は前回役者として舞台に立っていたようだ。役名は秦博（はた・ひろし）。役どころは「東日本技術科学大学の元准教授。セクハラ疑惑で懲戒処分（依願退職）」と手元のパンフレットに書かれている。一体何があったというのだろうか。

秦 本日はご来場頂き、まことに有り難うございます。弊劇団の脚本・演出のはなださとしです。毎度こんな感じで「前説」なるものを担当してまいりましたが、前回の公演では一回やめてみたんですね。で、何の前触れもなく音楽が高鳴り、客電がゆっくりと暗くなって、真っ暗になる。ポンと一本のサスペンションライトが点ると、舞台中央に俺が立っていて、第一声が「なんで？」って疑問形。突然始まるんで、「結構びっくりして心拍数あがちゃいました」なんてご意見も頂きましたが、こっちも結構ドキドキでしたよ。客席と舞台が完全暗転して、舞台に出るわけですが、まあ突然始まるわけですから、客席の前の方で未だ iPad がシャットダウンしきれずに淡い光を放ってる。そっちの iPhone が……ん？ Xperia？ じゃなくてヤマ電で売ってるあまり目にしたことがない端末……がシャットダウン中。暗転中に光る物は不味いでしょう？ 舞台に立ってる俺、微妙に見切れちゃってる？ つーか、ぼんやり見えちゃってない？ って、パニくってる最中に明照明ポンで、第一声が「なんで？」。ある意味ほんとに「なんでこんなことに？」……でした。寿命が縮む思いでしたよ……つーか、実際縮んだと思います。3日ぐらい……。でね、考えました。舞台が始める前に「携帯電話などの電源は切って頂けるよう」きちんとお伝えしよう……考えたわけです。今さら、そんな当然のことを？—と言うあなたのご意見はごもっともです。でも、これで終わる Bö-tanz ではありません。そもそも、悪のりして失敗し、失敗したら人の二倍は反省するという内省的な性格の劇団ですから、もう一段階の安全策を考えています。もう一段階の安全策。それは「上演開始時に暗転を缺まない」という革命的な解決法です。「えー、マジで！ 派手な MO（エムゼロ）が高鳴って暗転していく、あの芝居の始まる瞬間が大好きなのに」と身をよじったあなた！ 本当にごめん……。心の底から謝ります。でも今回は、暗転なしで芝居は開始されちゃいます。にゅるっと始まっちゃいます。で、もう賢明な方々は気付き始めているのかも知れませんが……公演は始まりつつあるのではないかいーいや、すでに始まっていると言っても過言ではないのではないかい？ 勘ぐりすぎかもしれませんが、それ正解です。さあ、携帯電話を、iPad を、すべての電子端末の電源を落として頂くタイミングがやってまいりました。そんなわけで、電源オフ！ シャットダウン開始。こうして、ほんの2時間ですが、俗世から離れる電脳デトックス（←だっけ？）の瞬間が訪れたわけです。

と、どこからか iPhone の着信音（「一般的なもの」……って、それは、なんだ？）がどこからともなく聞こえ始める。

秦 と、言ってるそばから、iPhone 着信です。誰？ （客席のあらぬ方を指差し）そっちの方から聞こえてない？ つーか、鞆の中とかに電源を入れたままの iPhone が……（と、何かに気付いたようだ）っと、ちょっと待てよ。これ、まさか……。〈尻のポケットに手を当てて、iPhone を引っ張り出す。それを見つめて……〉俺だ。つーか俺の iPhone だった。「いかにもの展開」で、ごめん。つーか、出ていい？ っていうか、出ないと、なんか、始まらないような気がするだよね……

と、iPhone の画面のボタンに触れ、耳に当てる。

秦 ……もしもし。ああ、俺。……どこにいるって？ ああ、今……サイゼリア……

突然、湧きだしたようにファミリーレストランのざわめきの SE。話し声、笑い声、フォークがさらにあたる音。場違いなカンツォーネが響き渡る。

同時にスクリーンに投影されるサイゼリアの店内。

タイピングの SE とともにスーパーインポーズされる文字。

「2015年3月11日 11:50 @F県浜通のサイゼリア」

即座にビープ音とともにサイゼリアの「ア」が「ヤ」に改訂される。

秦 えっ？ サイゼリア？ 「ア」じゃなくて「ヤ」なの？ マジで？ ……ああ、八百屋とか魚屋とかの「屋」か？ つーか、魚を売るから魚屋、「サイゼリ」を売っているから「サイゼリ屋」ね？ あの、じゃあさ。「サイゼリ」ってなに？ えっ、そうじゃない。そうでは、ない……。

秦の後方台上に、女が立っているのが分かる。壬生匡子である。耳に当てていた携帯電話に冷たく言い放つ。

壬生 お前の無駄話にいつまで付き合えばいい？

壬生の台詞言い切りで舞台はストップモーション。

スクリーンにカッコイイ壬生の横顔の写真（コントラストが効き過ぎて、ほぼ二値化されたような制止画）が叩き付けられるように投影され、タイピングの SE とともに以下の文字が表示される。

壬生匡子：

自称「悪徳弁護士」だが、壬生法律事務所の所長（ボス弁）は仮の姿。グリゴリを抹殺するために地上に墮とされた天使〈殺戮天使〉のひとりだ。〈グリゴリ〉を識別する魔法〈イントロスコピー〉を持つ。

文字が表示され終わると、何事もなかったように舞台が再び動き出す。

秦 怒った？

壬生 怒っているわけじゃない。いい、博。“コンボイ”がネフィリムを出そうよ。

秦 (時計をみて) まだ、3時間前だ。予定より早いな。その情報は？

壬生 晃から。

壬生が携帯電話のボタンを押す。棚橋晃との回線が同時につながったようだ。
棚橋が舞台奥台上に現れる。双眼鏡で遠方を見ながら……。

棚橋 ネフィリムの敷地内までには、さすがに警備がきつくなって、入り込めない。

スクリーンにカッコイイ棚橋の横顔の写真。タイピングのSEとともに以下の文字。

棚橋晃：

〈殺戮天使〉。元警察官（留置場看守）。留置されたヤクザに便宜を図った不祥事で処分を受け退職。なお、その特殊能力（魔法）は不明。

文字が表示され終わると、何事もなかったように舞台が再び動き出す。

棚橋 木に登って双眼鏡での退いている限りだが、ネフィリム特別管理棟に横付けされていたウラヌス廃棄物専用トレーラーが、中央管理棟前に移動したようだ。

壬生 例のものは積み込まれたわけね。

棚橋 多分な……。

秦 樋村からの情報は？

壬生 (携帯のボタンを押し) 克爾、聞こえる？

秦 お前の〈天空の目〉は？

樋村克爾に回線が同時につながり、樋村が舞台奥台上に現れる。

樋村 やはりダメだな……。

スクリーンにカッコイイ樋村の横顔の写真。タイピングのSEとともに以下の文字。

樋村克爾：

〈殺戮天使〉。千里眼魔法〈天空の目〉を持つ。かつては極悪ヤクザ組織、友誠会石間組お抱えのヒットマン（殺し屋）だった。

文字が表示され終わると、何事もなかったように舞台が再び動き出す。

樋村 タリスマンにより完璧にその周辺の視界が遮られている。

壬生 タリスマン。すべての魔法を無力化する力。つまり……

秦 トレーラーの周辺にアルマロスがいる。奴は同行する気か？

棚橋 おそらく。

秦 アルマロスがトレーラーに乗り込んだら厄介だな。
棚橋 そうならないことを祈ろう。
壬生 待って！ 大介君から連絡よ（と、携帯のボタンを押す）

両翼から飛び出してくる但峰大介（上手）と大念楓（下手）。大念は車を運転しているようだ。

但峰 壬生先生。今、国道沿いを流してるんですが……。
大念 思った以上に警察車両が集まってきてる。

スクリーンにカッコイイ但峰と大念の横顔の写真。タイピングの SE とともに以下の文字。

但峰大介：

**壬生法律事務所のイマイチ融通の利かない勤務弁護士（イソ弁）。つーか、
弁護士の仕事はしているのか？**

大念楓：

**壬生の秘書兼運転手。残念ながら弁護士ではなく法律にも疎い。しかし、何
故だかドライビング・テクニクだけは秀逸。**

文字が表示され終わると、何事もなかったように舞台が再び動き出す。

大念 にしても、すげえな、この数……
但峰 1 km おきに国道に検問でも敷く気ですかね？
樋村 俺がいるこの海岸沿いの立ち入り禁止地区にも、ちょぼちょぼ警察車両が到着しているようだ。
棚橋 PC 無線を傍受したところ、県下の PC の多くがこの国道沿いに集められているみたいだな。それだけじゃなくて、他県にも出動要請が出されている。
秦 どうして分かる。
棚橋 PC 無線にしばしば混じってくるんだ。マギー司郎みたいな言い方する警官が、つまり栃木県警……。
壬生 マギー司郎みたいな……。
樋村 言い方？
秦 どんな感じだ？ ちょっとマネしてみろ。
棚橋 俺が？
秦 折角の機会だ。
棚橋 すんの？
みんな うん。
棚橋 （マギー司郎の口調を真似る）
みんな 似てねー。（もし、とてつもなく上手くできたときには、拍手）
壬生 ウラヌス物質の運搬申請は県庁にも警察署にも正式には為されていない。つまり、この輸送は公ではなく極秘に行われているもの。でも、これだけ警察車両が集まっ

ているってことは……。

大念 かなりの大物が……。

但峰 裏で動いた……ってこと？

壬生 そうかもね。でも、公でない限り、大事には出来ないはず。

秦 ところで、石間組の動きは？

棚橋 ヤツらは磐梯熱海温泉に逃げている。

秦 それはフェイクじゃないのか？ 本当に……。

壬生 克爾。〈天空の目〉で彼らを確認出来る？ 今なら、アルマロスの妨害なしで確認出来るはず……。

樋村 分かった。

 樋村が額の前に指を立てる。
セフィロトの樹が回転し、グーグルアース [←いつもすみませんね] が磐梯熱海温泉に向かってズームアップ。

樋村 見えた。確かに、石間と滝野は磐梯熱海の露天風呂にいる……んっ。

 息を詰め、樋村が突如〈天空の目〉を閉じる。
同時に画像も崩れるように消える。

壬生 どうしたの、克爾？

樋村 いや、強制的に遮断した。隣の女性専用露天風呂に視線が引きつけられそうになったんで……。

壬・大 は？

秦・棚 いいなあ。その目、俺にくれ。

壬・大 アホ！

但峰 とにかく、状況は想像以上に難しくなってるんじゃないですか？ 時間は3時間を切っている。大幅な作戦変更は出来ない……。

壬生 戦略は変更せず、このまま進むしかない。そうよね？

秦 信じて進め。そうとしか言えない。

棚橋 （双眼鏡をのぞき込み）今、車両がやってきた。覆パトかなあ……いや、日本ネフィリム開発の車両だ。大介君の調査通り、トレーラーには先行車3台、追従車2台の計5台が付く。

壬生 “コンボイ”の完成ってわけね。

棚橋 朗報だ。アルマロスがトレーラーではなく後方の追従車、灰色のセダンに乗り込んだ。

秦 棚橋、そろそろ、木登りはお終いだ。追跡する準備を整えろ。お前の役割は重要だ。

棚橋 分かってるさ。任せとけ。（退場する）

秦 樋村、現場での位置を再確認。絶対に見つからない場所に身を隠せ。

樋村 了解だ。（退場する）

秦 匡子。大丈夫か？
壬生 大丈夫よ。博。幸運を祈ってる。
秦 誰に祈る？ まさか天に？
壬生 さあね。(退場する)
大念 ねえ、おっちゃん。すべてはあんたにかかっているんだよ。
秦 おっちゃんって、俺のことか？
大念 そうに決まっているだろ。
但峰 楓ちゃん。おっちゃんって、数人いるから、秦さん以外にも……。
大念 (但峰を睨みつけた後) じゃあ、秦さん。任せたよ！
秦 ああ。
大念 本当に任せたよ！
秦 分かってる。でも、楓ちゃん。本当にやばくなったときには、お前の力が、いや勇氣か、それが必要になる。
大念 ……。(唇を噛みしめた後、但峰の肩を叩き) 行くよ。大介！

大念と但峰が退場する。
サイゼリヤのざわめきが戻ってくる。

秦 (スマートフォンを仕舞ながら) 作戦開始か……。スクリーン使ったのカッコイイ紹介は俺に限っては、なしか。残念だなあ……。あつ、作戦開始のその前に……。ひとつ野暮用があったんだっけ。やべえやべえ、忘れるところだった……。

見ると秦の後方台上に一人の男(おっちゃん)が立っている。

秦 お前が、嘉剛(よしたけ)か？
嘉剛 (頷く気配)
秦 すまないな、こんなところに呼び出して。
嘉剛 ここに呼び出されることはあらかじめ分かっていた。
秦 プレコグニション……。予知ってこと？
嘉剛 それは私の能力のひとつに過ぎない。プレコグニション〈予知〉ではなく、オムニコグニション、すなわち〈全知〉だ。
秦 〈全知〉？
嘉剛 過去から未来、この世界のすべてを知る魔法。〈全知〉、それが私に与えられた能力だ。
秦 オールマイティー全知全能—は、あんたが名乗れる肩書じゃないんだが……。
嘉剛 私はオールマイティーではない。だが、過去、現在、未来は概ね見えている。
秦 じゃあ、今後の展開も概ね見えてるってわけね？ やりづらいなあ……。なあ、なに飲む？ カプチーノ、それともエスプレッソ？ あつ、見た目に因らず、コーヒー苦手なタイプ。じゃあ、なっちゃんオレンジでいいな。

秦の手にコーヒーカップが握られている。花柄のついたどこかで見たことのある…
…あっ！ サイゼリヤ特製コーヒーカップじゃん！ こいつらまさか盗（ばく）ったんじゃ……おい、何をするんだ！ 放せ。俺をどこに連れて行く気だ！ 放せ…
… 放せえ…… 放せえ……（←ト書きの人、強制退場）

嘉剛 私はいい。そもそもドリンクバーをオーダーしていない。

秦 まじで？ サイゼリヤでドリンクバーをオーダーしないって、剛毅だなあ。つーか、
寿司屋行って、寿司喰わねえのと一緒にじゃね？ つーか、寿司頼まねえで、ガリば
っか食べてる……って、喩え話が、なんか逆か？

そう言いつつも、秦は手に持ったコーヒーカップを翳して、ボタンを押している素
振り（←新しいト書きの人、登場）。ピッとタッチボタンが反応し、蒸気の漏れ出る
音とともに泡だったミルクが注がれていく音。

音が途切れてカップを動かそうとする秦。と、ブシューとコーキーが抽出される音。

秦 おっと、あぶねえ、コーヒーがまだだった。

どうやら、抽出が終わったようだ。秦がゆっくりとカップを口に当てる。

秦 結構いけるぞ、カプチーノ。いいのか？

嘉剛 （首を横に振る）結構だ。

秦 つれないねえ。で、プレコグのお前に聞くが……。

嘉剛 プレコグではなくオムニコグニションだ。

秦 どっちでもいい。今日の俺の運勢はどう見えてる？ 作戦は功を奏するのか？

嘉剛 それは上手く見通すことができない。秦、それはお前自身が運を天に任せているか
らだ。

秦 天に任せる？ 天なんて無慈悲なものに運命を委ねたりはしない。偶然の重なりを
自ら引き寄せるだけだ。でも、心配なことは心配だ。なあ、どう思う？

嘉剛 秦。お前が私に尋ねたかったのは、そんなことではなかったはずだが？ あの大洪
水の費用対効果だったろう。

秦 費用対効果なんて、冷静過ぎる言いぐさだな。何だったんだあれは？ 馬鹿げた愚
策としか思えない。4 年前のちょうど今日、あの大洪水は起きた。それは天使ばかり
ではなく、たくさんの人々の命を奪った。いや、それだけじゃなく……。

嘉剛 秦の言うとおり天は無慈悲だ。だが、決して愚かではない。確かに、あの大洪水で
多くの天使が、仲間である殺戮天使が、死んだ。だが、それに釣り合うだけの成果
を上げたのだ。200 人のグリゴリやその子孫の大半を殲滅したのみならず、大洪水
によってその統率者を葬り去ることに成功した……。

秦 統率者……。

嘉剛 そう、アザゼルだ。グリゴリの統率者であるばかりでなく、人類に戦いのための道
具、刀剣や槍、砲弾や爆薬といった武器の製造秘術を伝えた極悪天使だ。だが、墮

天の時にはグリゴリの人望を集めていたのは事実だ。200 人のグリゴリ達はアザゼルに導かれるように、その背中を追って、次々に地に下ったのだという。

秦 墮天の時。じゃあ、それ以降は……。

嘉剛 その後、間を置くことなく、ぷつぷつと消息を絶った。グリゴリの中には、アザゼルが天界に捕らえられてしまったのではと不安がるものも多かったという。だが、アザゼルは生きていたのだ。大洪水はアザゼルの呑み込み、濁流の中の流木や角礫（かくれき）がその身体を執拗に殴打し、また、鋭い鉄筋や金属板の切れ端がその身体を完膚無きまで切り苛んだのだ。天界に引き上げられたアザゼルの亡骸は見せしめのためにオリオンの星座に逆さまにつり下げられた。

秦 災いなるかな。天を裏切り、逆さに吊られし者。汝の名はアザゼル。

嘉剛 アザゼルだけではない。グリゴリの古き指導者サタナイル、人々に文字を書くことを教えたペネムエ、月の満ち欠けの秘術を漏らしたサハリエル……。指導的立場にあった多くのグリゴリ達が洪水により骸（むくろ）と化した。その魂は天界へ引き上げられ、業火に炙られ、そして霧となり、拡散して、消えた。

秦 で、200 人いたグリゴリは……原型（アーキタイプ）は今、何人残っている？

嘉剛 あの大洪水を生き延びたのは、数えるほどだ。

秦 アルマロス。そして……。

嘉剛 アルマロスは、すべての魔法を無力化する護符（タリスマン）の魔術を使う厄介な存在だな。そしてタミエル、神秘学問に精通していた。

秦 タミエルの魂は俺たちが……。

嘉剛 そうだったな。すでに彼女の魂は天界へと引き上げられた。そして、サタナイル。サタナイルは墮天の時にすでに天から処罰を下されていた天使。翼のみならず、両腕までもがれ、大地へと落下した。

秦 確か、蛇と呼ばれたグリゴリか？

嘉剛 蛇ではない。固い甲冑を持ったムカデ。サタナイルを蛇と揶揄したのはグリゴリではなく我々の方だ。そして、最後の一人は……。

秦 待て、じゃあ三人？ グリゴリの原型（アーキタイプ）は三人しか……。

嘉剛 そうだ。天界の行った行為は無慈悲だが、愚かなものではなかったと言っただろう。生き残れたのは、たったの四人。タミエルが昇天した今は僅かに三人となった。だが、その三人目が最大の厄介者なのだ。グリゴリの指導者、アザゼルの継ぎし者……。

秦 アザゼルの継ぎし者？ シェムハザイ……。

嘉剛 そう。シェムハザイはすべての魔法使いの祖先だ。彼の魔法の力は計り知れない。私もまたシェムハザイの秘術のすべてを目撃しているわけではないのだ。だから、我々の想像を遙かに超えた力を持ちとを考えておいた方がいい。

秦 オムニコグニション〈全知〉のお前にも分からないことはあるんだな？

嘉剛 言っただろう。私にも見えないところはある、と。そもそも〈全知全能〉ではない。さあ、お前の聞きたいことは伝えた。代わりにあれを頂こう。

秦 あれ？ あれって何だ？

嘉剛 じらすな。アマダスの弾丸だ。それとこの情報が交換条件だったはずだ。

秦 そうだったっけ……。

秦が右手を振りかざす。と、目も眩むばかりの閃光が指先で生じ、弾丸が現れる。きっとフラッシュコトンを使った手品だ。フラッシュコトンは無煙火薬であるニトロセルロースを含んだ綿で一気に燃え上がるので、手品で重宝がられている。が、基本火薬であり、燃えると当然熱い。秦は果たしてこの試練に耐えられるのだろうか？ いや、秦の指の皮膚はそれに耐えられるのだろうか？ つーか、ネタポロリの可能性も高いんじゃないか、それ？

秦 これがアマダスの弾丸だ。

嘉剛 ほお、それがアマダス。ウラヌスの男根を切り取ったという魔法の金属。

秦 そうだ。だが、どうしてこれを欲しがる？

嘉剛 天使も殺せる魔法の弾丸……。それで、自分自身を葬ることだって出来るだろう。

秦 グリゴリを葬るわけではなく、自らに用いる。やはり、そういうことか？

嘉剛 不死である我々が消滅しうる唯一の方法。さあ、渡してくれ。

秦 嘉剛、欲しけりゃ、力づくで取ってみろ。

嘉剛 ひどいなあ。情報との交換条件だったはずだが……。

秦 グリゴリを討つために用いるなら喜んで渡そう。だが、お前の自殺を幫助する気は一切ない。だから、これを手に入れたければ……。

嘉剛 力づくで奪い取れ……か？

秦はアマダスの弾丸を手に掲げたまま、ゆっくりと後退する。嘉剛に渡す気など一切ない。嘉剛は秦の仲間の一人、そう殺戮天使なのだ。仲間を死に追いやることなど決して出来ない。秦の意志は固かった。が……。

驚くほどの身の軽さで嘉剛が、弾丸を持った秦の右腕を極（き）める。その関節技は秦の意志より固かく極まった。で、秦の固かった意志がこんにゃくのようにふにゃふにゃになる。

秦 痛、痛、たたたた。ギブ、ギブ……つーか、何なの、その予測不能な俊敏な動きは？

嘉剛 言い忘れていたが、私は有段者だ。柔道2段、合気道3段、そしてそろばん4段、合わせて9段……。

秦 最後のそろばんは関係なくねえ？ つーか、ギブギブギブギブ、まじでギブ。分かった、分かった。俺が悪かった。やるやる、アマダスの弾丸。だから、ヘルプ！ つーか、マジでヘルプ。

嘉剛が弾丸をつかみ取り、秦の腕が開放される。肩を押さえてへたり込む秦。

秦 は一は一。馬鹿野郎。お芝居なんだから、もう少し上手くやれんのか？ マジで肩の関節がもきゅっと取れちゃうかと思ったぞ……。

嘉剛 (弾丸をしげしげと見つめ、心ここにあらずと言った感じで呟く) すまなかった。

秦 お前、謝る気一切ないだろ……。

嘉剛 なあ、秦。この弾丸だけでどうする？ これだけでは……。

秦 拳銃はなくとも発砲は出来る。内径 9,7mmのステンレスパイプがあれば銃身(バレル)の代わりになる。ホームセンターで売ってる 10mm径のステンパイプが打って付けた。20, 30センチ程度でいい。少々きついがそれに弾丸をねじ込んで弾丸のケツをアイロンで炙る。パイプの先端を自分の額に押し当てて、だ。

嘉剛 ホームセンター？ ホーマックか？ それともコーナン？ まさか、カインズホーム？ いや、待てよ……。

秦 そこは問わないから。どこでも売ってるから……。アイロンの設定は高温、スチームなしだ。アイロンは高温になっている。くれぐれも火傷に気をつけろ。

嘉剛 死を選んだ天使が火傷を恐れるものか？

秦 当たり前だ。火傷は結構辛い。じんじん痛むし……。今から死のうっていうときに火傷でもしたら、最高潮まで膨らませた死ぬ気も一気に萎んじゃうだろ。

嘉剛 (鼻で笑い) そんなものか？

秦 そんなものだ。(と、真顔になり) なあ、嘉剛？ お前は本当に死を選ぶのか？ そして死ぬのか？ お前のプレコグ……。

嘉剛 オムニコグニション。

秦 そう、それは、お前の命がそんな風に潰(つい)えたと伝えているのか？

嘉剛 (微笑んで、ゆっくりと首を振る)

秦 じゃあ、何故だ？ 運命に逆らうためか？

嘉剛 すべてが見えることによって、逆に見えなくなっていくものがある。翼をもぎ取られた代わりに、オムニコグニションの魔法が授けられた。その能力に目覚めれば目覚めるほど、それを使いこなせるようになればなるほど、失われていったもの……。

秦 それは……。

嘉剛 希望だ。希望を抱くことができなくなった。その先に何が待っているのか分かっているのに、何を期待しろと言うのか？ 胸が高鳴ることもなければ、心が弾むこともない。逆に明日に怯え、気を揉むことすらない。何もない。私の心の中には何もない……。

秦 アマダスの銃弾がその無間地獄を終わらせる……か。

嘉剛 そうだ。この弾丸が唯一の望みだ。私を変えることが出来るただひとつの希望……。

秦 運命に逆らうことこそ希望？

嘉剛 お前が希望を持てるのは……この運命の先に何があるか分からないからだ。だから使命を全うしようと躍起になる。使命を全うしたところで、お前は決して……。 (言葉を飲み込む)

秦 俺がどうなるって？

嘉剛 知りたいか？

秦 (首を横に振り) いや。やめとく。

嘉剛 どうしてあんなことをした？

秦 （手に巻き付けられたロープの切れ端を弄りながら）さあ……。

嘉剛 「ラザロの奇跡」は天界の秘術。どうでもいい人間の命を蘇生させるために、お前は……。

秦 どうでもいいなんて言うな。

嘉剛 秦。その愚かな行為によって、お前は無間地獄に墜ちる。

秦 （あーあ一言いながら、耳を手のひらで叩く）だから、俺の未来を知りたくない。そう言っただろう。だが、聞こえちまったから言うが……俺がどうなろうとそんなことは関係ない。すべてが終わったら、生き残った殺戮天使を天界に戻すことが出来る。だろう？

嘉剛 ……。

秦 それには答えちゃくれねえか……。なあ、嘉剛。その希望の弾丸とやらで、眉間を見事に撃ち抜けたとしても、今お前が生きている無間地獄とやらから転げ落ち、無間の間の底まで墜ちていくだけだ。なあ、くたばる前に、一度でいいから、俺たちと組まないか？ 使命を全うしてから、それを確かめてから、お互いくたばることにしないか？

嘉剛 （ゆっくりと首を横に振る）

秦 殺戮天使だろ？ グリゴリを殲滅するために翼をもがれて地上に落とされた……。違うのか？ カタストロフ。殺戮天使がグリゴリを殲滅しない限り、それはやってくる。あの大洪水を遙かに超えた災害だ……。

嘉剛 驚くべき数の罪なき人々を巻き添えにする。

秦 そうだ。たった三人のグリゴリを、あの反逆者達を殲滅するために、だ。それを止めることが出来るのは、俺たちだけだ……。お前は俺たちの側の天使ではないとも言えるのか？

嘉剛 （ゆっくりと首を横に振る）

秦 まさか、お前はグリゴリの一人か？

嘉剛 （ゆっくりと首を横に振る）

秦 お前はどちら側の天使だ？ 答えろ！ なあ、嘉剛！

秦は身をよじって、嘉剛に一步近づこうとするが……。まさにその時、手に持っていたコーヒーカップが何かに……。いや、誰かにぶち当たったようだ。

秦 あああああ……。すいません。コーヒーかかっちゃいましたね。あの、ほんと申し訳ない。うわー、真っ白なお召し物にコーヒーの染みがあ！ どないしょー。こんな高級そうな、つーか、これ特注の一点物でしょ？ 長い裾に、高い襟、右の腕には「夜露死苦」、左の腕には「喧嘩上等」……。待てよ。つーか、これ特攻服と呼ばれるジャンルに属するものですかね。つーか、すげえなあ、地方のサイゼリヤ。都市部のとは客層というか、服装が全く違って……。

と、秦の後方に現れるふたつの影。二人の女性が腕を組んで仁王立ちだ。シルエットからも想像できるが、特攻服らしきものをお召しになられているようだ。で、詳

細は後からきちんと説明するが、このお二方の名前はシナモロール【屍南無巻】とマイメロディ【魔威旋律】という。

魔威 どうしてくれんだよお。おっさん。

その迫力に2メートルは後方に吹っ飛んでしまう秦。
特攻服を着たふたつの影に明かり。シナモロール【屍南無巻】が身につけた純白の特攻服の胸から腰にかけて、コピーの染みがある。

秦 すいません。クリーニングでどうにかかりますかね、その染み……

魔威 クリーニングだあ？ ふざけてんのかよ、手前！

マイメロディ【魔威旋律】が手を振り上げる。

秦 暴力反対。

魔威 なにが暴力反対だよ、ああ？ ねえ、こいつやっちゃっていいすか？

秦 いえ、ダメです。つか絶体絶命じゃん、俺……って、待てよ。（と、何かに気付いたみたいだ。突如手を打ち鳴らして声を上げる）そうだ、俺には強い味方が！（態度を豹変させて、強気になり）なあ、姉ちゃんら。暴力に訴えるって言うのはあまり賢いやり方じゃないが、どうしてもって言うんなら、受けて立つ。だが、怪我は覚悟しとけよ。こっちには、柔道2段、合気道3段、そしてそろばん4段、合わせて9段の有段者がいるんだ……（と、背後を振り返り、おどろく）いない。どこにもいない。なんだかそんな気配はうすうす感じてた。逃げたな、あいつ！

と、逃げだそうとするが、マイメロディ【魔威旋律】に止められる。

魔威 どこ逃げようとしてるんだよ、おっさん。いいか？ クリーニング代とかって問題じゃねえんだよお。この特攻服はよお……

屍南 こいつはキティ【鬼帝】の特攻服なんだ。

秦 キティ……？

魔威 手前、どこのモグリだよ。キティっていったら、ハローキティ【鬼帝】に決まってるだろうが、おっさん！

秦 ハローキティって、もしかしてサンリオの？

屍南 そうだよ。こいつはサンリオ【惨璃悪】のハローキティ【鬼帝】のものさ。

秦 待って。待って。待って。俺たち今、話、噛み合ってる？ サンリオのハローキティはピューロランドにいたりするあれだよな？ 多摩センターの。俺の認識、間違ってるっぽい？ 君の言っているサンリオとこっちのサンリオ、なんだか上手く噛み合っていないよね。つか、誰か助けて……。解説必要でしょう、ここで。今まさに！

その言葉に呼応したかのように、一人の男が舞台に飛び出してくる。黒縁の眼鏡をかけた棚橋晃だ。胸に「BHK 解説委員・棚橋晃」と書かれた大きな札を下げている。

棚橋 ここで解説しよう。棚橋解説委員です。
秦 助かった。この俺の混乱を、狂い惜しいほどのパニックを鎮めてくれ！

スクリーン映像を駆使した棚橋説明員の微に入り細を穿つような解説が今まさに始まる。

棚橋 彼女等が口にしてしているサンリオとはサンリオピューロランドとは一切関係のない「浜通の暴走ハリケーン」と恐れられたレディース、すなわち女系暴走族「惨璃悪（サンリオ）」の事です。

スクリーンに映し出された「改造バイク」や「改造車」、それに群がる特攻服姿の女性達。その画像は極めて荒く、細部までは見て取れないが、何となくそれと分かるのだ。つーか、迫力スゲー。

で、その絵面に「惨璃悪（サンリオ）」の文字が血文字風に叩き付けられて、且つ血しぶきが飛ぶ。当然、派手なSEとともに、だ。

秦 そうか！ カタカナじゃなく、漢字当て字の「惨璃悪（サンリオ）」だったのかあ！（って、分かったような分からないような）

棚橋 浜通で2009年に結成された「惨璃悪（サンリオ）」は1年を待たずに、県下最大の女系暴走族（レディース）に成長。その勢力範囲は北関東一円に及び、その名を聞くだけで、皆震え上がったという！

スクリーンに派手なSEとともに叩き付けられる血文字。

「浜通で2009年に結成」、「県下最大の女系暴走族（レディース）に成長」、「北関東の暴走族はその名を耳にするだけで震え上がった！」

（今、不意に思ったんだが、映像は「仁義なき戦い by 深作欣二」風な感じがいいかもね）

棚橋 ここにおわすは、「惨璃悪（サンリオ）」の副長シナモロール【屍南無巻】と親衛隊長マイメロディ【魔威旋律】だ！

当然のように、スクリーンには二人の顔の大写し（←画質粗め、つーか、コントラストがきつすぎて、ほぼ丸つぶれの絵）とその名前が血文字風に叩き付けられて、且つ血しぶきが飛ぶ。当然、派手なSEとともに、だ。（←以降、すべてこんな感じで進行すると思って間違いない）

秦 おお。幹部クラス！ 「巻」と書いてロール、「旋律」と書いてメロディと読ますあ

たり、強引過ぎ……（二人に睨まれて）秀逸過ぎ！（と、あたりを見渡して）つか、今気付いたんだけど、このサイゼリヤの店内、みんな特攻服じゃん。一体、いつの間に！

屍南 そうさ。今日はこんなに集まってくれたんだ。

秦 なんつったっけ、君の名前……そうだ、思い出した。副官シナモロールだ。で、質問なんだが、シナモロール。どうして君がハローキティの特攻服を着てるわけ？

魔威 くら、手前、何軽々しくそんなこと口にしてんだよ。

秦 何つったっけ？ ……そうだ、特攻隊長マイメロディ。そりゃ、誰だって気になるだろ？

棚橋 説明しよう。

秦 頼む、棚橋解説委員！

棚橋 浜通の暴走ハリケーン「惨璃悪（サンリオ）」の総長（あたま）はハローキティ【鬼帝】。卓越したカリスマ性を備えた人物だ。彼女の存在が「惨璃悪（サンリオ）」の急成長を支えていたと言っても過言ではない。

スクリーンには純白の特攻服を着た女の後ろ姿。特攻服の背中には「鬼帝」の文字。美しいロングヘアが風になびいている。角度的にその顔を見ることはできない。

魔威 キティ【鬼帝】はスゲエ奴さ。迫力が、つか魅力が。ばねえんだ。キティ【鬼帝】に出会った奴はみんな誰でも、その下に付きてえって……すぐさま、そう思った。

屍南 口数は多くなかったが、その分キティ【鬼帝】は背中ですべてを語っていた。走るキティ【鬼帝】を追い掛ける。それだけで満ち足りた気分になる。キティ【鬼帝】の背中では100m後方から、いや1km離れてたって、目立って見えた。ゴマ粒よりも小ささでも、それははっきりと見えたんだ。ほんとだ。

秦 で、そのキティは？

棚橋 （シナモロール【屍南無巻】とマイメロディ【魔威旋律】が口を開きかけるが、何も言えずに俯いた。それを横目で見て）それは棚橋解説委員の口から説明させて頂こう。「惨璃悪（サンリオ）」の総長（あたま）、ハローキティ【鬼帝】は死んだ。

魔威 4年前の今日……。

秦 今日って……。

屍南 そうだ。あの洪水に巻き込まれて……。

魔威 キティは夜空の星になったんだよ。

キティの後ろ姿が光の群れとなって夜空へ上昇し、きらりと光る星になるのがスクリーンに映り、そして映像が終わる。

棚橋 それを期に、県下最大の女系暴走族（レディース）は、泣く子も黙る「惨璃悪（サンリオ）」は解散した。カリスマの死とともに永遠に消滅したんだ。

屍南 今日はキティの命日だ。だからこうやってみんなが集まったんだ。キティを弔うために、キティが消えたあの浜辺まで……。

魔威 年々、集まる人数は少なくなるけどな。でもよお、年いちでみんなが集まって走ると、その先頭の方にキティが走ってるのが見えてくるような気がしてさ。あの輝くばかりの男前の背中が……。

秦 ちょっと待て、マイメロディ。今、おじさん、ちょっとほろっと来そうになったぞ。つーか、マジで涙目になっちゃったぞ。

棚橋 私からの解説は以上です。

秦 ありがとう、棚橋解説委員。事の経緯がよく分かったよ。楽屋で休んでくれたまえ。俺もすぐ行く。

棚橋 お役にたてて光栄至極です。

にっこりと微笑み、棚橋退場。
と、マイメロディ【魔威旋律】がゆっくりと口を開き、秦に近づいてくる。

魔威 でだ、おっさん。どう落とし前付けてくれるんだよ、これ？（と、顎でシナモロール【屍南無巻】の特攻服のコーヒーの染みを示す）

秦 おう？ だから、それはクリーニング代を……。

魔威 ざけんじゃねえよ！ 今日がどんだけ大切な日か、分かってんのかよ！（秦をどつき、その首根っこを掴む）

秦 分かってる、つーか、分かってます。あれえ、俺たち、心ひとつになったんじゃないの、さっき同じ思いで涙を一緒に浮かべたのは、勘違いだったのかなあ……。

屍南 ねえ、おっさん。あんたはキティの形見を汚したんだ。それもこんな大切な日に……。

魔威 なあ、分かってんのかよ！ 手前は、キティの魂を汚したんだよ。

屍南 クリーニングなんて暇（いとま）はねえ。あんたはキティに詫び入れる必要がある。

秦 詫び？

屍南 キティが消えたあの浜辺まで、一緒に来てもらう。あたしのバイクと一緒に乗れ……。（退場する）

秦 マジでえ……。つーか、ヘルメット持ってないですけど。

魔威 いるか、んなもん！ いいから来いよ。（退場する）

秦 （マイメロディ【魔威旋律】に小突かれて怯むが）ちょい待ち、分かった。行くから……。つーか、のっけから大変なことになっちゃったなあ……って、（観客に）そう思うでしょ？

先ほどから減光を開始していた舞台の照明が、秦の言葉とともに完全に暗転する。
と、叩き付けるように流れ始める「Unbreakable/Fire flight」。
やっとのこと、オープニングムービー（1' 45"）が始まるのだった。は一つ、疲れた……。ここまででも、相当に疲れた。。

1. ビールのようにビールじゃない、べんべん

超イカすオープニングムービーが終わると、画面に走るノイズ画面。

スーパーインポーズされる文字。

「2015年3月11日 12:26 @F県浜通のサイゼリア」

の日時が時間を遡るように逆進し、場所もまたふんわりと変化し、

「2015年3月8日 21:43 @F県浜通・壬生法律事務所」

ゆっくり明かりがついていく。

缶ビールを手にした棚橋が現れる。それに突き動かされたように樋村、秦、壬生、そして但峰と大念が現れる。大念はみんなから離れ、一人スマートフォンの画面を見つめ続けている。

- 棚橋 つまり……。 (と、言葉を切って、缶ビールのプルタブをプシュッと空け、グビッとあおる) どういうことなんだ？ 石間組の動向が探りにくくなっているっていうの。
- 壬生 石間の愛犬、パピヨンの腹部に打ち込んだ百の目を持つ〈アルゴス〉の欠片……。
- 但峰 それが発信器となって、樋村さんの〈天空の目〉の能力で、それを聞き取るんでしたよね。普通に考えれば、〈アルゴス〉が問題なんじゃないですか？ 電池切れ、とか。
- 壬生 〈アルゴス〉に電池は入ってない。魔法だから……。
- 但峰 じゃあ、魔法切れ。
- 壬生 はあ？
- 秦 (缶ビールのプルタブをプシュッと空け、グビッとあおる) あるかもしれないな。大介君。魔法だって賞味期限が……。
- 樋村 いや、そんな風じゃない。(と、言葉を切って、缶ビールのプルタブをプシュッと空け、グビッとあおる) アルマロスが常に護符(タリスマン)の力を発揮しているんだ。結界を張ってでもいるように……。それが〈アルゴス〉からの発信を無力化している。
- 壬生 だとしたら、克爾の〈天空の目〉で直接組事務所を見ることもできないわけね。
- 樋村 そうだ。石間組事務所を中心とした半径20m。それが雲でもかかっているかのように隠されていて上手く見通すことが出来ない。
- 但峰 半径20m……。アルマロスの護符(タリスマン)の力の到達範囲。
- 棚橋 まさか…… (と、言葉を切って、缶ビールのプルタブをプシュッと空け、グビッとあおる) パピヨンに仕込んだ〈アルゴス〉が、ヤツらにばれたわけじゃねえよな？
- 大念 (プルタブを空ける音に反応して) おっさん。お前、ビール何本目だ？
- 秦 それならもっと違う手を講じてくるはずだ。俺が危惧しているのは……。
- 壬生 これが何かよからぬ事件の前兆ってこと？
- 秦 (頷いて) そんな気がして仕方ない。
- 壬生 メルトダウンしたネフィリムでは汚染水の貯蔵限界が問題となっている。ウラヌスに汚染された大量の廃棄物の一時保管場所の指定も急務の課題となっている。石間

組がなにか悪巧みをしていてもおかしくはない。とにかく探ってみるしかないわね。

棚橋 樋村の〈天空の目〉が使えない今……（と、言葉を切って、缶ビールのプルタブをプシュッと空け、グビッとあおる）生身の俺たちが動くしかねえか。

大念 おっさん、もう一度聞くんが。お前、ビール何本目だ？

秦 楓ちゃん。そう強く突っ込むな。棚橋は喉が渴いているんだ。さっき相当まくし立ててたから……。

但峰 さっき？

秦 そう。テンション、マックスで。

但峰 でも、舞台の上での飲酒は、ちょっと……。

秦 舞台？

但峰 はい。法律には抵触しないかも知れませんが、劇場の約款に違反……。

樋村 劇場の約款？

但峰 はい……。

棚橋 大介君。心配ご無用だ。なぜなら、俺たちが吞んでいるのは……。ビールのようでビールでない、べんべん。それはなにかと尋ねたら……。

樋村 アルコール、ゼロ！

秦 糖類、ゼロ！

棚橋 その上、プリン体、ゼロ！

三人 ノンアル……ノンアル……ノンアルコール（と、珍妙な踊り）

壬生 大介君、殴れ！

と、但峰が秦を殴る。

秦 痛ったあ。って、なんで俺？

壬生 その乗り、もういいから……。つか、調子に乗って、そのネタで20分ひっぱちゃう気か？ ダメ。今回は具が詰まってるから……。

秦 なに？ じゃあ、前は具が詰まっていなかったような言いぐさじゃん。

大念 （スマートフォンの画面を見つめたまま、冷たく言い放つ）あほ。つか、マジでうざい。

壬生 とにかく、克爾の能力が使えない状況なんだから、生身で探ってみるしかないわね。晃の言うとおりに……。

秦 その前に言っておきたいことがある。実はな……組事務所周辺で、こんな噂話が囁かれているんだ。

棚橋 どんな噂話だ？

秦 組事務所から、夜な夜な奇怪な笛の音が聞こえてくると……。

但峰 奇怪な笛の音？

秦 そう。2ちゃんのオカルト板の情報だが……。月のない闇夜。その漆黒の闇を満たす悲しげな笛の音。それはまるで……思いを残したまま、大洪水に吞まれて亡くなった者達の慟哭にも似て……。

全員 ぞくっ（と、身体を震わせる）

秦 その噂を含め、調査を開始しよう。
壬生 克爾は〈天空の目〉で〈アルゴス〉からの情報を引き続き探って。
樋村 了解。（と、退場する）
壬生 大介はネフィリム開発機構と石間組の周辺で何か動きがなかったか、探りを入れて
 みて。
大介 壬生先生、了解です。（と、退場する）
棚橋 俺は？
壬生 石間組の周辺の聞き込み。楓ちゃんと一緒にね。
棚橋 OK……って、オカルト系は嫌だなあ（ビールを飲み干しと、退場する）

だが、大念は動き出そうとしない。ただ、手にしたスマートフォンの画面を見つめて
いるのみだ。

壬生 楓ちゃん？
大念 うん……分かった。

と、心ここにあらずと言った風に、スマートフォンの画面を見つめたまま立ち上がり、
舞台前方袖よりに移動する。無心に画面をスワイプし続ける大念を、一本のサ
スが浮かび上がらせる。

舞台中央には秦と壬生。その背後のスクリーンにLINE（ライン：無料メールアプリ）
の画面が浮かび上がる。サンリオのキャラクターが楽しげに会話している。

マイメロディ：来るんだろ？

リトルツインスターズ：「当たり前でしょ、当然行くよ」的なスタンプ

ぽんぽんりぼん：集合場所はいつもの通り？

マイメロディ：ぽんぽんりぼん！ 元気だった？ 集合場所はいつもの通
り！

フランボアルウルウ：シナモロールは？

マイメロディ：超元気だよ！（と、ともにそれっぽいスタンプ）

フランボアルウルウ：会うのが楽しみ！（と、ともにそれっぽいスタンプ）

ぽんぽんりぼん：あと三日か……。

マイメロディ：そう、三日後（と、ともにそれっぽいスタンプ）

その映像を背に、秦が壬生に尋ねる。

秦 どうしたんだ、楓ちゃん。
壬生 毎年こうなんだよ。あの日が近づくと……。
秦 あの日……。
壬生 4年前のあの日。大洪水が襲った日。それが間近に迫ってくると、いつも元気爆発
 の楓ちゃんがスマートフォン見つめたままふさぎ込んじゃう。きっと、忘れようと

しても忘れることが出来ない思い出が膨らんできて、彼女の小さな胸（←貧乳のことではない）を埋め尽くしてしまうんじゃない？

秦 忘れようとしても忘れることが出来ない思い出か……。

壬生 あの日のことを忘れない……。多分そうじゃない。私たちは「あの日のことを忘れることが出来ない」のよ。決して……。

秦と壬生は一瞬見つめ合い、そして両翼に分かれるように退場する。

スクリーン上にはLINEの画像。

スマートフォンの画面から視線を上げた大念が固く目を瞑り、スマートフォンのボタンを強く押す。

と、LINEの画像が消え、大念だけを照らしていたサスも減光していく。

ぼんやりとした明かりの中、大念が力なく退場する。

2. それじゃまるで東京コミック・ショーだろっ

画面に走るノイズ。そして、スーパーインポーズされる文字。

「2015年3月8日 22:19 @F県浜通・壬生法律事務所」

の日時が順進し、場所もまたふんわりと変化する。

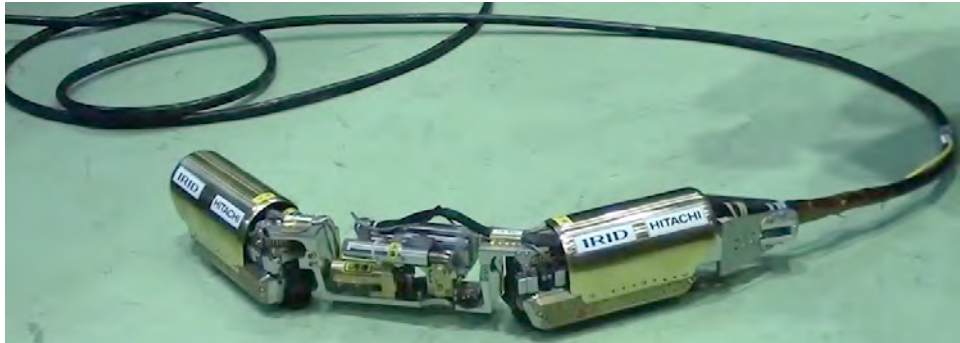
「2015年3月8日 23:15 @F県浜通・友誠会石間組事務所」

と、ノイズの中にニュース映像画浮かび上がってくる。メルトダウンしたネフィリム内部の撮影を行ったロボットのニュース映像だ。そのニュース報道は「日本ネフィリム開発は内部撮影のためロボットを投入したが、途中で走行不能となり回収を断念した」と伝えている。

その映像を見ているのは友誠会石間組の組長・石間龍雄と若頭の滝野雅哉だ。石間は愛犬パピオンを胸に抱いている。一方、滝野は大きな籠を胸に抱えているように見える。

二人の傍らで、小悪魔風ロリロリ少女のアルマ（正しくは、アルマロス）がロリポップキャンディを舐めている。

ニュース映像の終わりとともに、画像が切り替わり、調査ロボットの動作試験の様子の映像となる。調査ロボットとは、国際廃ネフィリム研究機構（IRID）と常陸製作所（HITACHI）が共同開発した、細い配管を通して、ネフィリム反応炉内に進入できる長いケーブルの尾を持った可変式ヘビ型ロボットのことである（↓）。



石間の胸元でパピオン（犬のぬいぐるみ）が吼えて、うなり声を発する。

- 石間 パピオンちゃん。よーし、よし。吼えないの。ねっ、ビーフジャーキーあげるから……。（ビーフジャーキーをパピオンの口に持っていきながら、視線を向けることなく滝野に向かって声を荒げる）で、何なんだ？ こんなニュース報道見せて……。
- 滝野 電源喪失に因ってウラヌスの魔法制御が出来ず、メルトダウンを起こしたネフィリムですが、4年経った今、やっとその反応炉内の様子が確認されました。この可変式ヘビ型ロボットがそれを……。
- 石間 そんなのは、説明されんでも分かっている。でも、配管を通して入り込めたはいいが、回収できず、って情けない結果になったわけだろ。何だか引っかかっちゃたんだって、グレーチングの隙間に、だっけ……。

アルマ （ロリポップを石間に突きつけて） たっちゃん。それ、本当は違うんだなあ。

石間 違う？ アルマ、どういうことだ？

アルマ 中で暴れ始めちゃったの。

石間 暴れたって、ロボットが勝手に？ そんなわけではないだろう……。

滝野 調査ロボットは、国際廃ネフィリム研究機構（IRID）と常陸製作所（HITACHI）が共同開発したのですが、その開発には当然ながら魔法が使われました。用いられた魔法というのが……。

アルマ サタナイル！ このふにゃふにゃ曲がる不思議なロボットの中にサタナイルがいるの。

石間 サタナイル？ なんだ、そりゃ？

滝野 なんでも、グリゴリの一人だそうで……。

石間 じゃあ、アルマのお仲間……か？

アルマ うん。でもね、サタナイルはとっても可哀相なグリゴリなの。私たちが墮天したとき、天界からこの地にやって来たとき、200 人の集団を率いたのはアザゼル。私たちはみんなアザゼルの背中を追って地に向かった。アザゼルの背中はずか後方からでも、どんなに離れていても、はっきりと見えたわ。垂れ込めた雲の中を通過するときだって、その背中だけは少しもかすみはしなかった。輝きはさらに増し、目映いばかりに輝いて見えた。私たちは皆、それを頼りに大地へと向かった。歓喜に満ち、力強く翼を羽ばたいて……。サタナイルはその集団の最後尾を任されたんだ。誰一人迷わぬように、はぐれてしまわないように……。その任を当てられたの。アザゼルからの信頼が厚かったから……。〈夢見るようにうっとりとしたアルマの表情が、難いように消える〉天界は私たちの自由への行動を造反と、裏切りと考えた。そして、私たちグリゴリの墮天を邪魔立てしようとしたの。背後から透明な巨大な手が集団に迫る。サタナイルはそれにいち早く気づき、反転し、それに反撃を試みた。でも……。

石間 でも？

アルマ 天界の巨大な手はサタナイルの敵う相手じゃなかった。その手がサタナイルの身体をつかみ取り締め上げた。サタナイルの口から絞り出される悲鳴。私たちは振り返ろうとした。だけど、サタナイルが血を吐くかのように叫んだ。「振り返るな！ アザゼルに続け！」私たちは皆、サタナイルのその叫びに従うほかなかった。アザゼルの背中だけを見つめて、私たちは速度を速めて飛び始めた。背後でサタナイルの絶叫が聞こえた。耳を塞ぎたく鳴るような絶叫だった……。私たちの傍らを何かが落下していくのが分かった。翼をもがれて、飛ぶことが出来なくなったサタナイルだ。痛みで意識を逸したサタナイルが、石の礫（つぶて）のようにものすごい速度で落下していく。先頭のアザゼルが身を翻し、加速し、その腕を掴もうとした。だけど……。〈言葉が途切れる〉

滝野 どうした？

アルマ サタナイルの身体には腕がなかったの。翼だけではなく両腕も引き抜かれていたの。サタナイルは飛ぶことも、姿勢を御することもできなくて、頭から大地に激突した。サタナイルの顔は、侵しがたい端正な美貌、畏怖すら感じると謳われたその美しさ

は、見る影もなく失われてた。尖った骨の先端が皮膚を突き破り、潰れた眼球からは、透明なゼリーみたいな何かが溢れだしてて……。アザゼルはサタナイルの身体を抱きしめ、その唇から嗚咽が漏れた。天使は不死（イモータル）、人と違って死ぬことが出来ない。サタナイルは、身を挺してグリゴリを守った勇者は、このままの痛ましい姿で、耐えきれないほどの痛みに苛まれたまま、生きていくしかない。アザゼルは傍らのシェムハザイに命じた。サタナイルの苦痛を取り去り、あるべき形を与えるように。シェムハザイはすべての魔法を司る偉大なるグリゴリ。シェムハザイは頷いて、サタナイルに魔法をかけ、その姿を巨大なムカデに変えた。

石間 よりにもよってムカデか？

アルマ 神々しかったわ。七色に目映く輝く固い甲羅に覆われたその姿は本当に美しかった。シェムハザイはサタナイルを百本の脚で自由に地上を、いえ広大な地下世界を存分に動き回れるようにしてあげたの。ムカデとなったサタナイルはアザゼルの瞳をじっと見つめた後で、身をくねらせて地面にもぐり込んだ。地中深く掘り進んでいく振動が私たちの足下を揺らす。その振動は少しずつ小さく、遠くなり、やがて消えた……。

石間 （滝野が涙目になっているのに気付いて）滝野、お前泣いてんのか？

滝野 いや、ちょっとぐっと来ちゃいまして……。

石間 お前はほんと弱いもう、浪花節には……。

滝野 浪花節じゃなくて、「神話」でしょ？

アルマ 正しくは「旧約聖書偽典」だけど。

石間 ふーん。って、なんだそれ？ （よく理解していない、というか、理解しようともしていない）それはそうと、アルマ。そのムカデのサタナイルがこの調査ロボットと……

滝野 ですから、細い配管を通して進入するこのロボットのコアに、地中を自由に這うことの出来るサタナイルが封じ込められたということです。成功を期する技術者達の思いがそれを……。

アルマ 技術者達なんかじゃなく、サタナイル自身の意志だよ。身を隠すように地中を這っていたのに、あの大洪水の後、サタナイルは突然地上に出て来たの。何かを探してでもいるように……。だから、この調査ロボットへ入り込むことになったのも……。

石間 その捜し物の一環、というわけか？

アルマ 私、それが気になっちゃって…… サタナイルに直接聞くことにしたんだ。

石間 ちょく……直接？ でも、このロボットは反応炉の中に……。

滝野 だからですね。アルマは行っちゃったんですよ。メルtdownを起こしたネフィリムに……。

石間 おいおい、あそこはウラヌスの魔法粒子がぎんぎんなんじゃ……。

アルマ ウラヌスの魔法粒子なんてへっちゃらなんだ。だって私にはチャームがあるもん。すべての魔法を無力化する秘術。

滝野 そう、タリスマンの秘術が彼女を……。

アルマ チャーム！ タリスマンって言い方、可愛くないし。

石間 じゃあ、お前がロボットの代わりに反応炉内に入れば、4年も待たずに……。

アルマ　私が細い配管をどうやってくぐり抜けれるってゆーわけ？　無理いわないでよ！
石間　そうか……。で、出向いて聞いたその理由って言うのは……。
滝野　実はですね。出向いて話を聞いてきただけではなく……。
アルマ　引っこ抜いて、連れてきちゃった……。
石間　つ・れ・て・き・たあ？　ちょっと待て。（と、滝野に向き直り）さっきから相当気になっていたんだが……敢えて突っ込まないように気をつけていたのだから……お前の持っているケージのようなものは、まさにケージか？
滝野　はい。このケージのようなものは、まさにケージです。
石間　儂の言葉をそのまま繰り返すな、馬鹿たれ！　で、ケージから黒いケーブル状のものがちゃんと垂れ下がっているが、これはまさか？
滝野　はい。そのまさかです。
石間　この中に、探査ロボットが？　（脱兎の如く後方に逃げ）待て、ウラヌスの魔法粒子がぎんぎんだらう、それ！
アルマ　大丈夫。私のチャームでウラヌスの魔力は完全に抑えられてるから。それに少々興奮気味のサタナイルもね。
石間　興奮気味？
アルマ　当然でしょ。反応炉の中で大量のウラヌスの魔法粒子に曝されて、サタナイルはちょっと我を失っちゃってるんだ。私がチャームの強さをちょっとでも弱めたら……。

と、アルマがうたた寝でもするように瞳を閉じ、首を斜めに傾ける。
と、滝野が胸に抱えるケージが狂ったように暴れ出す。獣の咆吼のようなおぞましい叫び声がケージの中から響いてくる。
パピヨンも鳴きまくりだ。

滝野　あわわわ……。
石間　（アルマの眼前で手のひらを打ち鳴らし）アルマ、起きろ！　チャーム、早くチャーム！

アルマがぱっちりと眼を開くと、喧噪は一瞬で収束する。

滝野　アルマ。冗談も大概にせえよ。
石間　は一は一。びっくりした。というか、パピヨンちゃんもびっくりしちゃったね、ほんと。
アルマ　で、折角だから、たっちゃんにもご挨拶をしたいって。
石間　儂に？　これが？　いいよ、儂は……。ムカデとかは、ほら……あれだから……。
アルマ　折角の機会だし。会いたいよね。
石間　いやいや、ガブッと噛まれたら嫌だし……。
アルマ　こうやってチャームを強く効かせている限りはおとなしいから。（と、背中から一本のリコーダーを取り出す）
石間　なんだ、その笛？

アルマ サタナイルは笛の音が大好きなんだ。笛の音につられて、こっちに顔を出してくれるんだ。

アルマ、リコーダーを咥えて、ピリヨリピリヨリピーと吹く。
が、何も起こらない。リコーダーの歌口でケージをぽんぽん叩いて、

アルマ おかしいな、今日はご機嫌斜めかなあ……。サタナイル、カモン！

再びピリヨリピリヨリピーと吹くと、その笛の音に合わせて、身をくねらせながら、サタナイルがケージから顔を出して現れる。

さて、ここでサタナイルについて少し説明をしておこう。

サタナイルはムカデ状の奇怪な生物だが、ここで観客が目にするサタナイルは、何となく縫いぐるみに見えなくもない。ティーエステーアドバンス社が販売している「深海生物シリーズ・ダイオウグソクムシ」のぬいぐるみ〔←AMAZONにて購入可〕を禍々しい色合いに塗り、そのケツにムカデ状の構造体を強引に縫い合わせた風にも見えなくはない。黒いケーブルの切れ端がケツの部分からぶら下がっているのは、サタナイルがかつて探査ロボットであったときの名残だろう。というものの、文字通り「縫いぐるみそのもの」だ。さらには滝野自身の右腕がその中に入っており、滝野の意志により動かされているようにも見えるから不思議だ。いや、正直に言えば、それが真実である。しかし、芝居の約束上、観客にはそうとは悟られないように演技してくれというのが、私からのお願いだ。無理だろうけど……。ともあれ、笛の音に乗ってひょっこり現れてしまったサタナイルだが、物珍しそうに周りをきょろきょろと見回している〔←と言う演技をしなければならないのは、滝野なのだが……〕。

アルマ こんにちは、サタナイル。ごきげんいかが？

滝野 （腹話術で）機嫌はいいよ。

石間 なんだか縫いぐるみのようにもみえるのだが……。

滝・ア （人差し指を唇に当て）しっ！

アルマ 私のチャームでその禍々しさが抑えられているだけ。

石間 更には、サタナイルの声が滝野の口から発せられている風にも……。

滝・ア （人差し指を唇に当て）しっ！

滝野 （腹話術で）そんなことないよ。喋っているのはサタナイルだよ。

石間 ほんとか？ （と、サタナイルの尾っぽ、というか滝野の肘のあたりに触ろうとして、近づく）

アルマ ダメ！ サタナイルは自分の付け根部分に触られるのが一番嫌いなもの。

石間 付け根？ 付け根って？ つーか、なんかこれ、滝野の腕が入っていたり……。

何を言われても石間の好奇心は止まらない。敢えて触ろうとしたその刹那、「かぷっ」という噛みついた音（SE）。サタナイルが大口を開き石間の額に噛みつい

ていた。

石間 （ストップもショーンで）あっ。

滝野 お、おやじ！（焦って身をよじるが、サタナイルの口は微動だにしない）アルマ！

アルマ ほら、言わんこっちゃない。

アルマが笛をピリヨリピリヨリピー吹くと、サタナイルの牙は石間の額を離れる。

石間 は一、びっくりした。びっくりにもほどがあるぞ。

アルマ だから言ったでしょ。付け根は敏感な部分なの。ヘタにめくられでもしたら、いろんな芝居の嘘がばれないともかぎらない……。

石間 もう、ばればれだと思うんだが……。

滝・ア （人差し指を唇に当て）しっ！

石間 そこは絶対に、譲らないのね。

アルマ サタナイル。たっちゃんよ。石間龍雄、石間組の組長。

滝野 （腹話術で）こんにちは

石間 こんにちは……って、やっぱり滝野、お前腹話術……って、そこも譲れないところ？

滝野とサタナイルと一緒に首を立てに振る。

石間 じゃあ、分かった。衛星中継やってくれたら、儂も認めよう。いっこく堂の声が遅れてくるやつ。それをやってくれたら、お前のその努力を認めよう。

滝野とサタナイル、顔を見合わせ、暫し黙考。と、意を決して、衛星中継敢行。

滝野 こちら……ヒューストン……。[←忘年会の余興としても認められないレベル]

石間 ダメじゃん。ちっとも出来てねえぞ。滝野お！

迫り来る石間の額をサタナイルが、もう一度カブッと噛む。そのままストップモーションで……。

滝野 （腹話術で）あんまり調子にのってると、みんなに怒られるぞ。前回のブルース・リーみたいに。

石間 その台詞、言っているのは、その虫か？ それともお前か？

滝野 私からの忠告です。（噛んでいた額から牙を抜く）

アルマ ねえ、ねえ、サタナイル。教えて？ ずっと地下で暮らしていたあなたが、4 年前のあの日から地上に出て来たのは何故？ あなたは何を探しているの？

滝野 （腹話術で）アザゼル……。

アルマ アザゼル？ 私たちをこの地に導きし者？

滝野 （腹話術で）あの大洪水で、アザゼルが死んだ。

アルマ 待って、アザゼルが……死んでいた？
滝野 （腹話術で）ここよりさほど遠くない場所でアザゼルは死んだ。いや、殺されたのだ。天界に……。
アルマ どこで殺されたの？
滝野 （腹話術で）ネフィリム、またはその近くだ。ネフィリムの中ではなかったのは、入り込んで見て確かめた。だから……。
アルマ ネフィリムの近くで、アザゼルは死んだ。その場所は……
滝野 （腹話術で）ネフィリムの近く。私に分けるのはそこまでだ。
アルマ 勇敢なる者、サタナイル。あなたの望みはなに？
滝野 （腹話術で）アザゼルの死せる場所に向かう。
アルマ どうして？
滝野 （腹話術で）私の命はアザゼルとともにある。アザゼルはそう言った。アザゼルの死とともに私も死に行く運命なのだ。アザゼルの死せる場所にたどり着くことが出来れば、私は死ねる。
アルマ すべてのグリゴリを救いし勇者、サタナイル。あなたは本当に死にたいの？
滝野 （腹話術で）アザゼル亡き今、私に生きる意味はない。
アルマ ねえ、聞いて。アザゼルは……あなたの敬愛するアザゼルは……。

アルマの言葉を最後まで聞くことなくサタナイルはケージの中に戻ってしまう。
アルマ、慌ててリコーダーを口に咥え、ピリヨリピリヨリピー吹くが、サタナイルはもう出てきてはくれない。何度吹いても現れようとしないのだ。

アルマ サタナイル！（ケージをリコーダーでばんばん殴って）サタナイル、お話ししましょう。何でへそ曲げちゃったのかなあ。サタナイルウ……。

「東京コミック・ショー」(<https://www.youtube.com/watch?v=-HcP4v9wsto>)は、斯くして、こんな終わり方をする。
舞台がゆっくりと転換明かりに変わっていき、三人はバタバタ騒ぎつつも退場する。

3. 夜な夜な聞こえてくる奇怪な笛の音の正体は

スクリーンにスーパーインポーズされる文字。

「2015年3月8日 23:52 @F県浜通・友誠会石間組事務所」

の日時が順進し、場所もまたふんわりと変化する。

「2015年3月9日 13:34 @F県浜通・壬生法律事務所」

舞台に登場する壬生、棚橋、そして大念。

棚橋 今朝のことだ。ネフィリム開発機構の特殊車両が組事務所に横付けされた。
壬生 特殊車両？
棚橋 ウラヌス関連物質の運搬車だろう。
壬生 どういうこと？ ウラヌスが組事務所にあったってこと？
棚橋 そうかも知れない。(首から提げた双眼鏡を示し) 遠目だったんで、確かなことは言えないが、運搬車に運び込まれたのは金属製のケージのようだった。それが……。
壬生 どうしたの？
大念 ガタガタ激しく動いていたんだ。
棚橋 その中に獰猛な獣がいるかのように……。
壬生 獰猛な獣？
棚橋 そうだ。
大念 パピヨンではないのは確かだね。その前に石間がパピヨンを連れて朝の散歩に出たのを私が確認している。
棚橋 でな、不可思議なことがもうひとつ。その運搬にはアルマロスと滝野が立ち会っていたんだが……。
壬生 どうしたの？
大念 アルマロスの様子がおかしかった。パニックを起こしているみたいに……

舞台後方台上に現れる、手にリコーダーを持ったアルマロス。

アルマ (リコーダーを吹いて) どうしたの？ どうして暴れるの？ 笛の音が好きなんだよね (リコーダーを吹いて)。
壬生 リコーダーを吹き鳴らして、パニック？ って、なんで？

舞台後方台上に滝野も現れる。

獣の咆吼。

滝野 アルマ、もういい。とにかく、こいつは移すしかない。
アルマ 大丈夫だよ。笛があれば……。 (と、リコーダーを吹く)
滝野 あのなあ、アルマ。ここに置いておける状況じゃないだろ。一晩で二倍以上、大きくなったんだぞ。今だって、みるみるうちに大きくなっていく。その上この凶暴さ

だ。ケージが壊れるのも時間の問題だ。とにかく、向こうにもっと大きく頑丈な鋼鉄製のケージを用意させた。とにかく、それまではお前のタリスマンの力でこいつを抑えつけておくんだ。

アルマ タリスマンじゃなくて、チャーム！

滝野 そうそう、チャームだ。とにかく、どうでもいいから、抑えつけろ。いいな。(横に視線を飛ばし、誰かに命じる) 早く車を出すんだ。俺とアルマが同乗する。大丈夫、向こうの準備は万端だ。上松建設の連中が、でかいケージを作り、ウインチと重機を用意して待っている。逃げ。行くぞ、アルマ。(と、退場する)

金属製のケージが壊れそうに軋む音。ガタガタという恐ろしいほどの振動音。アルマがリコーダーを吹くが、野蛮な咆吼が返されるだけだ。

壬生 アルマロスのタリスマンでも抑えきれない魔物？ アルマはそれをなだめようとして笛を吹き続けた。

棚橋 それが、組事務所から夜な夜な聞こえてくる奇怪な笛の音の正体ってことだろう。

壬生 でも、そのケージの中の魔物って何？ タミエルが召喚したアルプのようなもの？

棚橋 いや、召喚された魔物などではなく……。

壬生 なんなの？

大念 アルマロスがその獣をなだめようとして、こう叫ぶのを聞いたんだ。

金属製の軋む音と振動音、そして咆吼。

アルマがリコーダーを吹くが、それは収まりそうにない。

アルマ (リコーダーを吹くのをやめ) どうしても、私の言うことを聞いてはくれないの？ サタナイル……。あなたはアザゼルのもとに行きたいのね。何があっても……。

悲しそうな表情でアルマロスが退場する。

壬生 サタナイル……。

大念 そう。アルマロスはそう言った。

大念、手に持ったスマートフォンに視線を移し、座り込んでそれを注視し始める。後方で秦の声。腕組みした秦が登場する。

秦 サタナイル。確か、蛇と呼ばれしグリゴリだったな。

壬生 グリゴリ墮天の時に、唯一天の裁きを受けし者。

棚橋 死んだものと思っていたが……。

壬生 天使はイモータル〈不死〉でしょ。たとえどれだけのダメージを受けたとしても、そう簡単には死にはしない。

棚橋 でも、サタナイルはどうして、同胞であるアルマロスの言うことを聞かず半狂乱と

なっているのか？

秦 更には、滝野が、身銭を切って、サタナイルを保護しようとしているのか？

壬生 滝野には、滝野の思惑あってのこと……か？

秦 そうだ。で、奴らの向かった先は？

大念 （画面から視線を外すことなく）ネフィリム。

棚橋 メルトダウンしたネフィリムの構内に消えていった。で、追跡はそこまで……。ネフィリムの警備は今や鉄壁だ。俺たちが侵入して、タミエルを殺し、アルプを、あの化け物をシュヴァルトアルヴヘイム、黒い妖精の国に戻したあの一件以来、警備が徹底された。

大念 （画面から視線を外すことなく）百メートルおきにマッポがいるって言うても良いくらいの警備体制……。

壬生 もはや裏山超えて侵入なんてことは出来そうにない……か。

棚橋 そうだ。まあ、仕方がないが……。

と、携帯の着信音。

壬生への電話だ。

壬生 （携帯を確認し）大介君から。

壬生が携帯のボタンを押し、耳に当てると、舞台後方台上に但峰が飛び出してくる。

但峰 壬生先生。今、茨城県東海村です。

壬生 東海村？ で、大介君。何か掴んだの？

但峰 はい。

壬生 ちょっと待って。みんなが君の報告を聞き取れるように、ハンズフリーにするわね。
（ボタンを押し）いいわよ。報告をお願い。

但峰 はい。日本ネフィリム開発に向けて、ウラヌス廃棄物専用トレーラーと護衛車両 5 台の配車依頼が届いたようで、東海村の車庫からそれらが今まさに出発しました。

壬生 その行き先は？ 聞くまでもなく……。

但峰 メルトダウンしたネフィリム。

壬生 こっちに向かっているってことね。では、ウラヌス廃棄物の輸送隊が組まれるってこと？ なんて言ったっけ？

但峰 ウラヌス廃棄物輸送隊、すなわち“コンボイ”です。“コンボイ”が予定されているものと思い調べてみたのですが、そのような計画があることの裏付けが一切見当たらないんです。

壬生 裏付け？

但峰 ウラヌス廃棄物輸送に関しては「ウラヌス関連物質安全輸送規則」に則り行われることになっていますが、法令上必須な指定確認機関であるネフィリム安全技術センターによる安全基準を満たすか否かの確認が採られてはいません。それどころか、最寄りの消防署、警察署、関係する県庁、更には所管する経済産業省への連絡も正

式に行われていません。

壬生 つまり……この“コンボイ”はウラヌス廃棄物輸送のために組まれたものではないってこと？

但峰 そうです。この輸送は公ではなく極秘に行われるものです。一体何を運ぶ気なんでしょう？

壬生 ねえ、大介君。日本ネフィリム開発や関係する機関を回って、もう少しだけ探ってみてくれるかな。“コンボイ”は「何」を運ぼうとしているのか。そして、どこまで運ぶ気なのか。公じゃないとしても、日本ネフィリム開発にはその計画案が文書の形で伝えられているはずよ。

但峰 先生、僕もそう思います。

壬生 やり方は任せるわ。頑張るって。

但峰 了解です。では。（と、電話を切り）とはいったものの、これからどうするかな……。

但峰が退場する。

壬生は携帯のボタンを押して。

壬生 聞いた？

棚橋 さすが、悪徳弁護士のお卵。

壬生 お褒め頂いて光栄だわ。

棚橋 褒めたのかどうかは微妙なところだが……。

秦 棚橋、ネフィリムに出向いたアルマロスと滝野はまだ戻ってきていないのか？

棚橋 アルマロスは残ったが、滝野は組事務所に戻ってきている。

秦 ということは？

棚橋 組事務所にアルマロスの結界はない。百の目の〈アルゴス〉からの情報を障害なく受け取れる。樋村は？

壬生 克爾は部屋に籠もって集中している。

棚橋 ちょっと様子を見てくる。（走って、退場する）

壬生 集中を邪魔しちゃダメよ。さてと、私も私なりに探してみるか。大介君だけに任せちゃおけない。（と、退場する）

秦も退場しようとするが、ひたすらスマホの画面を見つめる大念の存在に気付く。

秦 どうした、楓ちゃん。

大念 （スマートフォンを見つめたまま）なんでもないよ。

秦 何でもない風には見えないが。誰かからのメールか？

大念 ラインだよ。

秦 ライン？

大念 そう。ライン……。

ゆっくりと舞台が転換明かりとなり、舞台後方台上にアルマロスが現れる。

秦と大念はそれとクロスフェードするように退場する。

スクリーンに投影される鋼鉄のケージ。獣の咆吼。鋼鉄のケージが軋むような激突音。

アルマ　ねえ、聞いて。サタナイル。アザゼルは……。勇敢なる者、サタナイル。あなたは本当にアザゼルとともに死にたいの？

アルマ、手に持ったリコーダーを吹くが、もうサタナイルは何の興味も示しはしない。

舞台前方の袖に人影。サスがその人物を浮かび上がらせると、芝居の冒頭に登場した嘉剛であることが分かる。

サタナイルの咆吼が、ディレイの尾を引きずって、遠くなる。

嘉剛　アルマロス。珍しいこともあるもんだ。そちらから声をかけてくるなんて。私からは何度会おうとしても、君は……。

アルマ　（嘉剛の言葉を遮るように）オムニコグニション、〈全知〉なるお前に教えてほしいことがある。

嘉剛　私は「殺戮天使」だが……。

アルマ　いえ、あなたにグリゴリを殲滅する意志は一切ない。ただ傍観するのみ。でしょう？ だから、あなたは「殺戮天使」ではなく「傍観天使」。

嘉剛　「観客天使」の方がより適切だ。客席から芝居の登場人物達が右往左往するのをただ観ているだけの存在。だが、その芝居の脚本はすでに頭の中に入っている。一字一句そのすべてを暗唱できるほどに。だからこの観劇は退屈きわまる。だが、うたた寝するわけにはいかない。どうしてかって？　ごくたまにだが、役者の中には予想だにしないミスをする者や、極端なアドリブを仕掛けてくる者がいて、私の知る現在と未来が書き換えられるからだ。その瞬間だけは、ほんの一瞬だが、ニヤリと出来る。

アルマ　（嘉剛の問わず語りに辟易して）ねえ、教えて欲しいことがあるの。あの大洪水で、アザゼルは死んだの？

嘉剛　アザゼル？　グリゴリの統率者の？

アルマ　確かにグリゴリを最初に統率したのはアザゼルよ。私たちはその背中に導かれるように、天界を離れて地上に降り立った。その背中は黄金に輝き、すべての者に勇気を与えた。天界を捨てて、前に進む勇気を。でも、アザゼルはかつての統率者よ。いえ、統率者ではなく引率者、先導者と称されるべきかも。

嘉剛　引率？　先導？　酷い言いぐさだな。

アルマ　だって、そうじゃない。アザゼルの輝ける背中が私たちをこの地に導いたのは確かよ。それがなければ皆、雲の縁で二の足を踏んでいたはず。だから、グリゴリがアザゼルを敬う気持ちも分からない訳じゃない。でも、アザゼルがしたことはそれだけ。地に降りた後、間をおかず、アザゼルは消えた。私たちと組むことなく、一人で生きる道を選んだ。

嘉剛　グリゴリは自由を得るために天界を捨てたのだろう。人間達が自由に生きるのを見て、それに憧れ、それを得ようとした。自由であろうとした。仲間と連むことなく、我が道を行くことを選択しても何の問題もないはずだ。それを「裏切り」だとでも考えているのか？

アルマ　分からない……。

嘉剛　アザゼルは一人で自由に生き、そして人々に戦いのための武器の作り方を伝えたと聞くが……本当にそうだろうか？

アルマ　どうということ？

嘉剛　アザゼルの魔力は他者に勇気を与える能力。天使でもそうなのだから、相手が人間であれば、無謀な行為も辞さないほどの度胸を与えかねない。アザゼルは人々に戦争のための道具、刀剣や槍、砲弾や爆薬の製造方法を教えたわけじゃなく、それを開発する欲望は最初から人類の中であって、アザゼルはその欲望を高揚させただけじゃないか。望むと望まざるに関わらず、アザゼルという存在そのものが人間を無軌道なまでに剛胆にしてしまうのだ。それは天使もしかり。だからアザゼルは……。

アルマ　（嘉剛の話す内容にむかつきを覚え始め、冷たく言い放つ）ねえ。そんな話はどうでもいいの。あんたの下らない解釈を聞いているほど、私は暇じゃないし、こらえ性もない。さっさと私の質問に答えてよ。アザゼルはどこで死んだの？

嘉剛　メルトダウンしたネフィリムからさほど遠くない海辺……樽江海浜公園。

嘉剛が最後の台詞を言い切るか切らないうちに音響が高鳴り、嘉剛がゆっくりと退場する。

と、サタナイルの咆吼。

スクリーンに投影される鋼鉄のケージの映像が、その咆吼に呼応するように激しく振動する。

アルマ　樽江海浜公園……。我々を救いし者、サタナイル。私がお前の望みを叶えてあげる。その地へ、お前を運んであげる。「あの日、あの時」に……。

サタナイルの咆吼。映像が激しく振動する。

アルマ　お前はそこでアザゼルの残存思念と出会う。長きにわたる孤独は、その寂寞（せきばく）は、そこで終わる。お前が時に寂しさに身を震わせ慟哭していたのは知っていた。それが地震の原因となるからだ。陸地の浅いところで起きるそれはすべて、サタナイルによるもの。あの洪水の後、それが頻発したのは、お前がその時にアザゼルの死を知覚したから？

サタナイルの一際大きな咆吼。激しく振動する映像。

アルマ　明後日の「あの日、あの時」、あなたはアザゼルと出会い、地中に潜り、息絶える。サタナイル。きっとあなたは大きく身を震わせることでしょう。あなたの死の瞬間、

大地はどれだけ揺れるのか？ 大地はお前の喜びをどれだけの振動で祝福してくれるのか？ 喜び？ お前が身を震わせるのは、喜びのためか？ それとも安堵、いえ、もしかして諦念？

サタナイルが立てて続けに咆吼する。映像が激しく揺れる。

アルマロスが正面に向けていた視線を手にしたリコーダーに向ける。

咆吼。高鳴る音楽。舞台がゆっくりと転換明かりに変わり、アルマロスが退場する。

4. 名案はいつもふたつ目に示されるもんだ

明転すると手前の舞台の上に樋村と棚橋が現れる。

棚橋 樋村、どうだ？ アルマロスが組事務所から離れた。それに奴がタリスマンを常時使っていた理由は……。

樋村 分かっている。秦の手の間にも〈アルゴス〉が仕込まれていたのを忘れたか？

棚橋 あっ、そうか。つーことは、お前、秦の日常を常に盗み聴き出来るってわけか？

樋村 望んではしないが、ね。

棚橋 作戦の都合上とはいえ、秦も思いきったことしたもんだ。

樋村 今さら悔やんでも、悔やみきれないだろうな。

棚橋 まあ、あいつは後先考えないところもあるから仕方ねえか。と、それはともかく…
…。

と、樋村が棚橋の言葉を手のひらを突きつけて制す。樋村の顔つきが変わったのを、棚橋は見取り。

棚橋 パピヨンに仕込んだ〈アルゴス〉か？

樋村 そうだ。石間に電話がかかってきた。

棚橋がゴクリと喉を鳴らし、樋村が眉間に指を立てて意識を集中する。
舞台後方台上に石間が現れ、照明が振り替わる。
石間はパピヨンを抱きながら、誰かと電話をしている。

石間 ……ですから、先生。ネフィリムの汚染水の貯蔵限界の件は重々承知しております。台風の時期であればですね、サブドレンに垂れ流すことは出来ましたけどね。薄まりますから……。今はダメです。絶対ダメですよ。数値がすぐ出ちゃいます。えっ？ なんですか？ 凍土方式でガチガチに凍らせた地下に汚染水を蓄える……って、それ不可能です。インポッシブル、って言うか、無理。あのねえ、凍土方式なんて嘉島（かしま）建設のフカシだって先生方もみんな気付いてるでしょ。そんなことしたら嘉島が会社ごと吹っ飛びますよ。文字通り吹っ飛びます。いえいえ、成層圏どころじゃなく、月の裏側まで吹っ飛びますよ。あの……月の裏側に高級マンション立ててどうするんですか？ 月って大気がないの知っていました？ えっ、初耳って……もう、先生（とほほ）。……はい。分かりました。汚染水の問題は、喫緊の課題……ですね。可及的速やかに……ですね。どんな手を使っても……ですね。はい。分かりました。暫しお時間を頂ければ……はい。はい。（と、電話を切って）って、どうしろっていうんじゃ！

渋い顔で石間が電話を切るのと同時に滝野が舞台後方台上に現れる。

滝野 族議員の先生から催促の電話ですか？
石間 まあ、そんなところだ。
滝野 ネフィリムの汚染水問題ですね？
石間 そうだ。あいつら、こっちの気も知らないで……。パピヨンちゃん、ほんと、どう
しましょうかねえ。（と、ビーフジャーキーを口元に持っていく）なあ、滝野、タン
クローリー500台用意して、下北半島の向こうの津軽海峡まで捨てに行くか？
滝野 そうですね。
石間 お前もちっとは真剣に考えてくれよ。まじで……。（ため息をついて）で……。どう
したあの気持ち悪い虫は？ なんつったっけ？
滝野 サタナイルです。
石間 ああ、それ、それ。どうした？
滝野 ネフィリムの管理区域内に隔離しています。すでにアルマのタリスマンの魔術でも
抑えきれなくなってきましたね……。
石間 あらまあ、チャームの魅力が通じないか。じゃあ、あの笛ピロピロも効果なし？
滝野 はい。アルマの新技「東京コミック・ショーの秘術」も、もう効きません。それど
ころか、昨日までは50センチぐらいの大きさだったじゃないですが、あの虫。それ
がどうしたわけか……。多分反応炉内でウラヌスの魔法粒子を大量に浴びた影響なん
でしょうが、どんどん大きくなっちゃいまして、今や2メートルぐらいです。
石間 2メートル？ あれが、2メートル？
滝野 ネフィリムの管理区域でも鋼鉄製の檻に閉じ込めたんですが、今にも壊れそうでひ
やひやですよ。運んでいる最中もどんどん大きくなってたんで、今頃3メートルぐ
らいになっているかも知れません。
石間 おいおい、あんな化け物に脱走されて、そのあたりで暴れられてみろ、ネフィリム
は大パニックだぞ！ あれ、どうにかできんのか？
滝野 はい。どうにかする方策はあります。あの虫を殺す方法はふたつ。一つ目はアマダ
スの弾丸で脳天を撃ち抜くことです。
石間 アマダスの弾丸！
滝野 そうです。天使も殺せる魔法の弾丸。壬生匡子のこころにいる、秦って言うちんけ
なセクハラ野郎が、それを作る能力を持ってるってアルマが言っていました。
石間 それか！ タミエを殺したって弾丸は！ 滝野、すぐさま壬生法律事務所にカチコ
ミだ！ その秦って野郎を拉致って、手足切り落として、鎖に繋いで「魔法の弾丸
の自動販売機」に変えちまえ！
滝野 まあまあ、それもひとつの有効な手段ですが、二つ目の案を聞いてください。
石間 二つ目だあ！
滝野 まあまあ、抑えて！ とにかくこっちの方が名案中の名案なんです。
石間 どんな名案だって言うんだ？ まあ、頭の切れるお前が言うんだから相当なもんだ
とは思いますが……。
滝野 あの虫を、サタナイルをウラヌス廃棄物専用トレーラーに乗せて、浜辺まで運びま
す。アザゼルが死んだ場所である樽江海浜公園。まあ、海浜公園と言ってもそれは

大洪水が起きた前の話で、今は瓦礫だらけの立ち入り禁止区域となっています。ネフィリムからの指定廃棄物の一時保管場所としてもこっそりと使われています。まあ、これ絶対に公には言えませんが……。

石間 まあ、滝野。そこまで連れて行ってどうするんだ？

滝野 アザゼルが死んだ4年前と同じ「あの日、あの時」にサタナイルをそこに導けば、奴はアザゼルの残存思念とともに消滅します。

石間 アルマがそう言ったのか？

滝野 はい。

石間 でも、大事じゃないか、それ。トレーラーまで用意しなきゃならないし……。秦、拉致って弾丸作らせて、バンの方が楽じゃねえか？

滝野 確かに手間はかかります。でも、この二つ目の作戦が名案だというのは、ここからです。あの虫、サタナイルは地中深くに棲んでいたグリゴリでしたが、どうも地震を引き起こす能力があったようなんです。「サタナイルが時に寂しさに身を震わせ慟哭する。それが地震の原因……」とアルマは言っていました。つまり、あの洪水以降、北関東から南東北にかけての内陸部の浅い深度で地震が頻発しているのは……。

石間 あの虫の所為？

滝野 そういうことになります。サタナイルが消滅するその時に地震が起きる。ネフィリムから40kmも離れていない場所で、極めて浅い深度で……。内陸直下型地震は狭い範囲に集中的に大きな揺れを引き起こします。

石間 待て、待て、そんなことになったら、メルトダウンしたネフィリムはどうなる？

滝野 ネフィリム施設は地震に対しておしなべて強い設計となっています。メルトダウンしたネフィリムであっても、この内陸直下型地震によって想定される震度6、400ガルであれば十分に耐えることが可能です。ですが……。

石間 ですが……なんだ？

滝野 にわか作りの汚染水タンクはどうでしょう？

石間 滝野、お前、何が言いたいんだ？

滝野 漏洩リスクが高いと判断された「フランジ型タンク」の解体と更新は着手されたりはかりで、未だ350基残っています。大変残念ながら、それらはこの地震に耐えることが出来ないでしょうね。（これ見よがしに、表情を曇らせてみせる）

石間 つまり……。

滝野 大量の汚染水が流れ出てしまう。不幸なことに、その天災によって……。当然、マスコミは「天災ではなく人災だ」と騒ぎ立てるでしょう。ですが、これは不幸な天災。時は巻き戻せない。覆水盆に返らず……。です。まあ、所詮汚染水ですから、大量の海水に混じってしまえば、数日で検出限界を下回ることは確実です。

石間 ふーむ……。

滝野 フランジ型タンクがダメージを受け、流れ出る汚染水の量は15万トン。現在貯蔵されている総汚染水量の1/3を超えます。大惨事であることに変わりはありませんが、これによって逆に、時間のかかっていたフランジ型から溶接型へのタンクの更新の工期も1/4に一気に短縮されます。当然、それに伴い汚染水の容量上限に十分すぎ

る余裕が生じますので、先生方も大喜び。そうじゃないでしょうか？ まあ、新しいタンク建設の入札に関しては、上松建設に仕切らせましょう。

石間 滝野……お前。

滝野 はい。

石間 やりおるのお、おぬし……。

滝野 はい。すでに廃棄物専用トレーラーの手配は日本ネフィリム開発に手配しておきました。なにせ明後日に差し迫っていますから……。

石間 （満面の笑顔で）やりおるのお、おぬし……。

滝野 すぐに族議員の先生方に、おやじの方から、連絡してください。あの腐れ代議士の方々にも、いろいろとご協力頂かなければなりませんので……。

石間、滝野の肩をばんばん叩きながら、携帯電話を取りだして話だす。

石間 あっ、先生。石間です。今お電話よろしいですか？ はい。急な話なんですけど……。

電話をしながら、石間は滝野とともに退場する。

照明が後方台上に振り替わる。

樋村がゆっくりと眉間に当てていた指を降ろす。亡霊のような表情を浮かべている。

棚橋 どうした？ 何を聞いた……。お前、顔色が真っ青だぞ……。

樋村 棚橋。すぐに全員を集めろ。

言い切りで叩き付けるように音楽（I Will Not Bow/Breaking Benjamin）が流れ出す。

芝居の「中締め」なので、この名曲をしばらく流して、ゆっくりじわじわ暗転……という手もあるが、盛り上げて転換明かりとし、いい感じのところで音響カットアウト&カットインで明転って感じの方がいい。ねっ？

で、転換明かりの間に秦、壬生、大念が舞台上に現れる……って言う風にしてシーンを繋げよう。

転換明かりの中、音響カットで、テロップイン。

「2015年3月9日 21:57 @F県浜通・壬生法律事務所」

で、明転。

そこに、息を切らして但峰が駆け込んできてくる！

但峰 大変です。日本ネフィリム開発に提出された計画案を確認したんですが……壬生先生がいつもやられているように、これ、この弁護士記章見せびらかして……。で、分かったのは、“コンボイ”が動くのは……。

壬生 明後日、11日だろ？

但峰 なんな、なんで知っているんですか？ この超新鮮極秘情報を！

壬生 （無言で樋村を指差す）

但峰 〈アルゴス〉が復活？
壬生 そう。で、“コンボイ”の積み荷は、グリゴリ……。
棚橋 サタナイルという名のグリゴリだ。
但峰 グリゴリ？ なんで？
樋村 そのグリゴリが内陸直下型地震を引き起こす。
但峰 はいっ？ 地震って、どこで？
樋村 メルトダウンしたネフィリムから40kmの距離の海岸だ。
但峰 そんな近くでネフィリムは大丈夫なんですか？
秦 懸案の4号機の使用済みウラヌスの撤去も完了しているし、滝野が想定する震度6、400ガル程度なら、十分に耐えうる設計だと考えていい。注水冷却システム、格納容器ガス管理含め、ネフィリム自体は問題ないだろう。だが……。
大念 フランジ型タンクはやはり耐えられない？
秦 何せ急造の粗悪品だ。その公算が高い。
但峰 待って。そのタンクって汚染水を保管してるタンクのこと？
大念 そう。大量の汚染水がだだ漏れになる。
但峰 マジで？
壬生 何としてもそれを止める必要がある。グリゴリを仕留めるというだけではなく……。
秦 で、“コンボイ”の規模は？
但峰 申請された計画書では廃棄物専用トレーラー。最大積載量は2トンにすぎませんが、ウラヌス粒子の防御機構が搭載されているので、見た目は25トントレーラーと変わりありません。それに護衛車が5台。トレーラーを前後に挟むようにして、“コンボイ”が形成されるはずですよ。
棚橋 更には警察車両がその前後を警備するんだろうな。そんな“コンボイ”をどうやって襲う？ どうやって止める？
但峰 僕らの機動力といえば、税金対策のためだけに購入した壬生先生の赤のレクサス、楓ちゃんの愛車トヨタMR2、車齢17年、毎年車検、それに棚橋さんの中古のバイクだけですよ。
秦 後は俺のチャリンコな……。
但峰 あんなママチャリ、機動力として認められません。
秦 お前、ああ見えても、6段変速だぞ。
壬生 まあ、それはそうとして、たとえば、アマダスの弾丸でターゲットを遠くから撃ち抜くにしても……。
樋村 無理だな。サタナイルは廃棄物専用トレーラーの分厚い防御壁の中だ。
壬生 到着地点で待ち受けるにしても、樽江海浜公園跡地の周辺は厳重に警備されているに決まってる。そもそも、その最終到着地点を、ピンポイントで知ることすら出来ない。今や瓦礫の保管場所と化した樽江海浜公園だけど、思いの外、広いし……。
（秦に）さて、どうする？
秦 俺？
棚橋 だって、お前が「考える担当」だろ？
秦 「考える担当」って？

樋村 元准教授だし。
秦 正しくは、というか公には、元セクハラ准教授だ。
棚橋 はめられて、クビになったただけだろ？ 本当はまあまあの研究者だったんだろ？
秦 だったかな？ 忘れたよ。……分かった、分かったよ。とにかく戦略を考えてみる。でも、少しは考える時間をくれよ。
壬生 コーヒーでもいれる？
秦 どちらかというとビールがいい。
他全員 ダメ！

と、転換明かり。優しげな
秦と大念を残し、その他は退場する。
プシュッという音。秦が缶ビールのプルタブを空けた音だ。
と、The Diary of Jane [Acoustic]/Breaking Benjamin が静かに流れたす。
ゆっくり明転すると舞台中央に秦。大念は舞台袖でスマホを見つめ続けている。

大念 (スマホから視線を外すことなく) で、結局ビール呑んでんだ。
秦 ノンアルだよ。
大念 嘘つき。
秦 ばれた？
大念 バレバレ……。
秦 大人には呑まなきゃいけないときって一があるんだ。まあ、そんな時にはいくら呑んだって、少しも酔えないんだけどな。
大念 だからって、呑み過ぎんなよ。
秦 ご心配なく。そこまで無責任じゃない。
大念 どうだか……。
秦 楓ちゃん。またスマホ見てるな？

その背後のスクリーンに浮かび上がる LINE (ライン：無料メールアプリ) の画面。
サンリオのキャラクターによる楽しげに会話だ。

シナモロール：いよいよ明後日

マイメロディ：てっぺん回った。だから、明日だ！ みんな準備OK？

リトルツインスターズ：「ばっちりOK」的なスタンプ

ぽんぽんりぼん：「ばっちりOK」的なスタンプ

フランボアルウルウ：「ばっちりOK」的なスタンプ

シナモロール：何人集まる？

マイメロディ：最低でも30かな

フランボアルウルウ：「すごい！」的なスタンプ

ぽんぽんりぼん：いよいよ明日だ！

マイメロディ：そう、明日だ(と、ともにそれっぽいスタンプ)

大念 (スマートフォンを見つめたまま) 私の勝手だろ。
秦 何なんだ？
大念 何でもないよ。
秦 何でもない風には見えないな。
大念 ただ、ライン見てるだけだよ。既読を付けずにただ眺めてるだけ……。
秦 複雑だな。
大念 ちっとも複雑じゃない。ちょっとした裏技。「機内モード」で確認すればいいだけ…
…。
秦 俺が複雑だと言ったのは、既読付けずにライン読んでる楓ちゃんの心境の方だ。どうしてだ？
大念 関係ないだろ？
秦 なあ、話してくれたら、牛角の食べ放題奢ってやる。
大念 あほか。
秦 牛角プレミアムコース。霜降り上タン塩が絶品だ。俺の分のデザート、アールグレイのなめらかプリンもお前にやる……。
大念 (ため息をひとつ付き、意を決して口を開く) ねえ……。
秦 どうした？
大念 もしかしたら、役立つかもしれない情報があるんだけど。

そう言って、スマートフォンの画面からやっと顔を上げ正面を見る大念。その表情は何故か悲しみに満ちている。

あの日が近づくと、皆こんな表情を浮かべてしまうのだ。

あの日のことを忘れない。ではなく、みな「あの日のことを忘れることが出来ない」のかもしれない。

その大念を背後から見つめる秦。

ゆっくりと舞台が暗転していく。

5. 海浜公園にはたくさんの思い出が詰まっている

浮かび上がる海岸線の映像。瓦礫が散乱している。

スーパーインポーズされるテロップ。

「2015年3月10日 8:42 @F県浜通・樽江海浜公園跡地」

舞台中央に立つ樋村。まっすぐに正面を見つめている。

舞台後方台上に秦がいる。

秦 最終到達地点が、樽江海浜公園跡地……。俺にとっては、決して忘れることの出来ない場所。そして、お前にとってそこがどれほどの場所なのか、俺と比較できる話じゃないことは理解しているつもりだ。なあ、今度の作戦だが、お前が無理だというのなら……。

樋村 秦。俺はサタナイルの最終到達地点を知っている。

秦 どういうことだ？

樋村 アザゼルが死んだその時、俺はそれを見ていたんだ。〈天空の目〉で……。あの時、4年前のあの時、確かに見たんだ。その海岸で一人のグリゴリが洪水に巻き込まれ死んだのを……。

秦 確かなのか？

樋村 迫り来る津波に巻き込まれる直前、翼が大きく開かれるのを確かに見た。巨大な翼だった。どんな天使でもひれ伏してしまいそうな迫力を持ったその翼の持ち主こそ、アザゼルだ。おそらく、いや、絶対に……。なあ、秦。その位置をピンポイントで特定するために、樽江海浜公園に行かせてくれ。

秦 出向く必要があるのか？ お前の〈天空の目〉で……。

樋村 ダメだ。大洪水以前と今では風景がまるで変わってしまった。〈天空の目〉で、その頃の記憶と照合することは不可能に近い。だが、そこに行けば、きっとそれを特定できる。特定できれば、トレーラーから出て来たサタナイルを、待ち伏せに近い形で、撃ち殺すことが出来る。

秦 本当に行く気か？

樋村 （頷き）ああ。お前のママチャリを貸してくれ。

秦 は？ 樽江海浜公園跡地はここから30km以上あるぞ。匡子の車を借りて、俺が……。

樋村 （首を横に振り）気分転換の早朝サイクリング。それに6段変速なんだろう？ なあ、秦にだってやるべきことがある。バイクの改造を棚橋一人で出来ると思うか？ 車体にバイナルシートを張るだけでも、しわだらけにしちやいそうだし。知ってるだろう？ あいつは不器用以外の何者でもない。

秦 それはそうだが……。

樋村 それに……。もし、すでに警備体制が敷かれているのだとしたら、車で行くのは目立って仕方がない。ママチャリの方が注目を浴びることはなく、怪しまれない。

秦 （右手を振って鍵を放る）ママチャリの鍵だ。地点の特定を頼む。でも、警備して

いる奴らには見つかるな。必要以上の警備強化をされたら敵わない。

樋村 （すでにチャリンと音を立てて鍵を右手で掴んでいる）分かっている。十分に気をつける。

秦が退場し、舞台の上には樋村だけとなる。

樋村 樽江海浜公園。今でこそ瓦礫に溢れた立ち入り禁止地帯に過ぎないが、あの大洪水の前は、その名の通り、ここは小さな海浜公園だった。申し訳程度の砂浜が2 km に渡って続いていて、それに沿って小径が作られていた。

瓦礫だらけの海岸線の映像から瓦礫が消え去っていき、早春の美しい海岸線へと姿を変える。

ゆっくりとサングラスを外す樋村。

樋村 春になると勢いよく伸びてくる若葉で海岸線の縁がすべて緑に染まる。たくさんのつぼみを付けた細い茎が勢いよく立ち上がっている。膨らんだつぼみはやがて弾けて、やがて可愛い薄紫色の花を咲かせる。

映像の中に小さな女の子が現れる。辻井純鈴（つじい・すみれ）という名の女の子だ。首に紫色のスカーフをも着付けた映像の中の女の子が満面の笑みを浮かべて語りかけてくる。

純鈴 たくさんのお花。これはスミレ？

樋村 （首を横に振る）いや、スミレじゃないな。

純鈴 でも、紫色だよ。スミレ色……。

樋村 スミレ以外にもスミレ色の花はたくさんある。これは……ハマダイコンの花だ。

純鈴 大根？

樋村 そう。大根の仲間。よく見てご覧。スミレは花びらが5枚だけど、これは4枚しかない。

純鈴 同じスミレ色なのに、スミレじゃなくて大根なんだ。ねえ、これ食べられるの？

樋村 さあ。食べられるかどうかは分からない。食べたことがないからね。

純鈴 食べてみる？

樋村 チャレンジャーだな、純鈴は。

純鈴 でもやめとく。おなか壊しそうだから……

樋村 卓見だ。

純鈴 たっけん？

樋村 ごめん、言葉が難しかったね。つまり、先見性があるってことだ……って、これもまた難しい。うーん。言うなれば、卓越した洞察力！ て、ますます難しくなっていく……。

純鈴 （遠くを見つめて）いっぱい咲いてるよ、ハマダイコンの花。向こうの方までいっ

ぱい……。

映像の中の純鈴が駆け出して、フレームアウトする。(←少女の顔は制止画で構成してみようかな。動画だと難しそうだし、制止画の方が思い出っぽい。うーん、どうしよう)

樋村 天真爛漫を絵に描いたようなこの女の子は辻井純鈴（つじい・すみれ）。当然のことだが、彼女には母がいた。母の名は辻井純奈（つじい・じゅんな）だ。

樋村の背後（後方の台上）に立つ一人の女、辻井純奈（つじい・じゅんな）、がメガホンのように手のひらを口に当てて叫び声を上げる。

純奈 純鈴！ だめよ、一人でそんな遠くまで行っちゃ！

樋村が振り返ると、純奈がにっこりと微笑み返し、段上から樋村のもとに降りてくる。

純奈 純鈴はまたここに来てたんだ。本当にこの浜辺が好きなのね。

樋村 純奈。来てたのか？

純奈 来てたわよ。いけない？ 折角の純鈴との二人きりの時間を邪魔しちゃったかな？（と、いたずらっぽく微笑んだあとで、周りを見回す）まだ肌寒いけど、もうすぐ春なのね。若葉がこんなにもたくさん伸びて、花が咲き始めてる……。

樋村 これはハマダイコンの花だ。

純奈 ハマダイコン？ まだ風は冷たいのに、花は季節の変わり目を敏感に感じ取ってる。

樋村 ハマダイコンの紫色の花を見て、純鈴は「これはスマレ？」と聞いてきた。

純奈 （微笑んで）純鈴は何時だってそう。紫の花は全部スマレだし、紫色のものは何を見ても、「これは私の色。純鈴色」そう言って、にっこりする。そうそう、純鈴、紫色のスカーフを首に巻いているでしょ？

樋村 （遠くを見て）そうだな。

純奈 あれね。カッコイイお姉さんからもらったんだって。それもこの公園で。そのお姉さんは、いつもここで、たった一人で海を見つめているって純鈴は言ってた。真っ白なコートを着てるんだけど、そのコートには読めない純鈴には読めない漢字がいっぱい書いてるんだって。

樋村 読めない漢字？

純奈 うん、そう言ってた。よく分からないけどね。で、全身真っ白なのに、首には紫色のスカーフを巻いていたらしいの。純鈴ったら、物怖じしない性格でしょ。で、そのスカーフを指差して、「それは私の色だ。純鈴色」って微笑んだんだって。そうしたらそのお姉さんが「紫色が好きなのか」って聞いてきたんだって。

樋村 純鈴は当然、「好きだよ。だって私の色だもん」って答えた。

純奈 いつもの様にね。そしたら、そのお姉さんがスカーフを外して、純鈴の首に巻いて

くれたんだって。「紫が好きなんて、将来性がある」お姉さんは純鈴に向かってそう言ったそうよ。

樋村　で、それをそのままもらっちゃった？

純奈　そう。はしたないったらありゃしない（と、言葉と裏腹に微笑む）。何かお返ししなきゃいけないでしょ？　で、純鈴にその人の名前を尋ねたの？　純鈴はなんて答えたと思う？

樋村　さあ、想像も付かないな。

純奈　「ハローキティ。お姉さんお名前はハローキティ」だって（声を出して笑う）。「サンリオ」の……。そして、こんなおかしいことを言ったの。「ねえ、ママ、ママ。でもね、ハローキティのハローは〈こんにちば〉じゃないんだよ」じゃあ、何なの？　って私が聞くと、こう答えたの。「おねえちゃんと言ったんだ。ハローキティのハローは〈空っぽ〉って意味だって」

樋村　（呟くように）ハローキティ。〈空っぽ〉のキティ……。

純奈　本当に変な子よね、純鈴は。お姉さんは本当にそんなこと言ったのかなあ。でもね、純鈴はそのお姉さんのことが大好きみたい。そのお姉さんに会いたくて、毎日この浜辺に来てるのかな。だとしたら、そのお姉さんにちょっと嫉妬しちゃうかも……。　（と、遠くを見て、メガホンのように手を口に当て）純鈴、ダメよ。そんなに遠くに行っちゃ！（純鈴が戻ってくる素振りを見せないことに落胆して）もう、ほんと天真爛漫で、ママの言うことなんて機構ともしない。

樋村　でも、いつも思うんだけど、純鈴って名前は本当に彼女に合ってるよ。それに何度聞いても本当に素敵な名前だな。

純奈　（満面の笑みを浮かべて）純粹の「純」に「鈴」で純鈴。純粹の「純」は私の名前「純奈」の「純」から……。悟からは一文字ももらわなかった。いえ、もらえなかった……。どんなに愛していたって、私は愛人のひとりにすぎなかったし……。だって、悟のお葬式にすら出られなかったのよ。（小首を傾げて）参列する勇気がなかったのかな。そば降る雨の中、傘で顔を隠して、私は遠くからそれを見つめていただけ。隠れるように墓前に出向き、小さなスマイレ色の花を手向けて、逃げ去ることで精一杯だった。私にはなににもない。何も残ってない……。

樋村　……（黙して、俯く純奈を見つめるのみだ）

純奈　いえ、私には純鈴がいる。純鈴の笑顔がある。それだけで十分……。

と、純奈の言葉が途切れ、ふらついて倒れそうになる。樋村がその小枝のような身体を抱き留める。

樋村　大丈夫か？　無理してはたらきすぎているんじゃないか？

純奈　そうかも。働き過ぎかも。夜の仕事が向いていないって、分かってるわ。でも、それしかできないから。純鈴を一人で育てて行くには、働くしかないし……。

樋村　純鈴の養育費なら俺が……。

純奈　（首を横に振って、樋村の言葉を遮る）いいの。純鈴を育てるのは私の責任よ。克爾には感謝の言葉もないわ。純鈴の相手をしてくれるし、私のそばにも寄り添って

くれる。でも、これ以上甘えることは出来ない。(樋村の抱擁を優しく解いて) 克爾、本当に甘えるわけにはいかないの、これ以上……。

樋村 純奈。俺は……。

純奈 (何かを言いかけた樋村を制して) ねえ、お腹空かない？ 私ぺこぺこ。仕事の前にゆっくり食事しようよ。私がお金出すから、イタリアンなんて、どう？

樋村 外で、イタリアン？

純奈 そう。サイゼリヤで！ (満面の笑顔で) 純鈴ね。ミラノ風ドリア、税抜き 299 円也、が大好きなの。三人で楽しめて、家計に響かない。サイゼリヤ、最高！ (遠くに向かって叫ぶ) 純鈴、戻ってきなさい。ご飯食べに行くよ。サイゼリヤ！

(と、樋村に向き直り、微笑む) ほら、聞き分けのなかった純鈴が、全速力で駆け出したでしょ。(と、また他方を見て) 純鈴、そんなに走っちゃ転んじゃうよ！

弾けるような笑顔を残り香のように舞台上に残し、純奈が退場する。

浜辺の映像がフェードアウトし、消え入る。

樋村 純鈴は純奈と愛人関係にある朝井悟との間に産まれた子供だ。認知こそされていないが、それは事実だ。だが、純奈の話にもあったが、朝井悟はすでに死んでいるというのも事実。そして、もうひとつ決して純奈に漏らすことの出来ない事実があった。朝井悟は……グリゴリだったのだ。

舞台後方台上に現れる秦、壬生、そして棚橋。

秦 匡子、それは確かなんだろうな？

壬生 ああ、奴は生粋のグリゴリよ。私の〈イントロスコピー〉を信じて。

棚橋 関東電力のネフィリムの受注を一手に仕切っている東亜建設のコーディネーターの朝井悟がグリゴリのアーキタイプ？

壬生 そう……アサエルよ。

棚橋 名告ったのか？

壬生 私に見抜かれた時にね。奴は私のことを同じグリゴリだと勘違いした。私は咄嗟にハイブリッドの振りをした。

棚橋 確かに、殺戮天使もグリゴリも元は同じ天界に住む天使。区別がつくはずもないってか。で、そいつの素行調査の方は？

壬生 朝井悟の素行調査資料を完璧に揃えてある。言っちゃ何だけど、幾多の愛人はべらす素行の悪さだけでなく、会社の営業実態もズブズブ。脱税どころじゃなく、贈収賄にまみれちゃってる。ただ、税務署や警察が動く気配はこれっぽっちもないけどね。

秦 当然だ。ネフィリム企業に有力代議士が付いていないわけがない。

棚橋 電力族議員の古川？

壬生 多分ね。とにかく朝井悟、アサエルの行動パターンは解析済み。後は手を下すだけ……。博、どうする？

秦 奴の行動パターンから見えてくる穴を突くしかない。やはり愛人絡みかな。棚橋はそいつの……。

樋村 (秦の言葉を遮って) 秦。今回は俺一人でやる。

棚橋 お前が一人で？

樋村 そうだ。

照明が樋村だけになる。

樋村 幸か、それとも救いようもないほど不幸なのか、同一人物の殺害依頼が同時に発せられていたのだ。

舞台前方両袖に石間と滝野が現れる。

石間 なあ、克爾。これ代議士の古川さんからの直々の指示でもあるんだよ。ネフィリム建設の仕切りの仕切り直してわけだ。

滝野 東亜建設は調子こいて、古川さんにとっても扱いづらい相手になってきたようなんだ。そこで一気に上松建設に鞍替えしようって懇談だ。古川さんにもウチにもとっても美味しい話なんだなあ、これが。

石間 そこで邪魔なのが、コーディネーターの朝井悟だ。あいつがいなくなりや……。

滝野 東亜建設は人脈も求心力も失い、自滅する。で、こっちの仕事は格段に楽になる。

石間 「赤子の手を捻るも同然」と、パピヨンちゃんも言っている。

滝野 たった一発の弾丸で、煩わしさは一気に解消だ。費用対効果なんて持ち出すまでもなく、これが最高の解決策というわけだ。

樋村 ……。

石間 どうした克爾？ なんでいつもの様にすぐに首を立てに振らねえ。

滝野 あれか？ まさかあのキャバ嬢のことか？

石間 なんだ、あのキャバ嬢って？

滝野 ホワイトテラスってラウンジのホステスが朝井悟の愛人の一人なんですよ。確か純奈って名前の女なんですけど、そいつと樋村は……。

石間 克爾、お前、朝井の愛人を寝取ったのか？ すごいなあ。豪腕だなあ。

樋村 違います。ちょっとした知り合い。それだけです。

石間 じゃあ、「渡りに船」じゃないか、とパピヨンちゃんも言っている。その愛人も自分のものになっちゃうから、一石二鳥じゃん。

滝野 任せたぜ。樋村。

石間 頼んだぞ、克爾。

滝野と石間は台詞の言い切りで退場する。

舞台の上の殺戮天使達に再び明かり。

秦 (手のひらを宙に持ち上げ、二発の弾丸を見せる) 樋村、アマダスの弾丸だ。

樋村 どうして二発ある。俺は一発あれば十分にヤツを仕留めることが出来る。
秦 朝井悟に子供はいない。だが、愛人との間に娘が一人いる。
棚橋 つまり、ハイブリッド？
秦 （頷き）匡子のイントロスコピーに頼るまでなく、確実だ。実際のところハイブリッドが殲滅対象かどうかは分からない。だが、その娘がその対象となると思うのなら……。お前がその魂を救ってやれ。

樋村だけの明かりとなり、殺戮天使たちはばらばらと退場する。

樋村 決して無慈悲な発言なんかではない。秦の言うとおりで。ハイブリッドの魂を救うこと……。それは俺にしかできないのだ。秦にも、棚橋にも、匡子にもさせるわけにはいかない。もしそうになったら、俺は身を挺してそれを阻止するかも知れないからだ……。使命と私情が俺の中で反発し合う。身体がふたつに切り裂かれる……。

握りしめていた拳をゆっくりと開くと、そこに一発の弾丸があることが分かる。

樋村 俺の手の中には、まだ一発のアマダスの弾丸が残っている。秦から受け取った二発のうちのひとつだ。もうひとつは朝井悟、アサエルを葬るのに使った。

瞼を固く閉じる樋村。怯えて哀願する男（朝井悟）の声が響いてくる。

「……殺戮天使か？ アマダスの弾丸で私を……待て、待つんだ。話せば分かり合える。私の魔法は天界の知識と洞察力、そして共感力……それだけだ。攻撃にも守備にも使えない。頼む、話し合おう。そうすれば……」

樋村 災いなるかな、人を惑わし、私腹を肥やす者。汝の名はアサエル。

銃声が轟く。尾を引く残響……。

樋村 こんな男に人生をいように弄ばれている純奈が不憫で仕方なかった。俺が朝井悟の眉間に向けてアマダスの弾丸を放った瞬間に考えたのはそのことだった。俺は使命で朝井を撃ったのか、それとも私情からか……。そして、残された愛人、辻井純奈と娘の純鈴を大切にしたいというこの気持ちは、朝井悟を殺した贖罪なのか？ それとも、俺は……。奴の眉間を撃ち抜いた銃弾は、同時に俺の心も撃ち抜いたのか？ いいか、思い出せ。俺は殺し屋だ。人を殺すことを生業（なりわい）として生きてきた。使命としてグリゴリを殺さねばならないのなら、かつての同属である天使を殺す責務に耐えることが出来るのなら、人を殺すことを職業とすることに何の障害があろうか？ いや、正直に言おう。グリゴリを殲滅する心の痛みを軽くしようと、殺し屋に成り果てたのではなかったか。強いのではなく、弱すぎたのだ。たくさんのグリゴリを、そして人を何の感慨も持たず殺すことによって、ナイーブすぎる自らの心を、その感覚を麻痺させようとしていただけだ。朝井悟を、あの哀

れなグリゴリを無残に撃ち殺したその時に、自分の心の弱さを、目も当てられないほどの脆弱さを思い出したのだ。だから、俺は純奈に、その娘の純鈴の中に逃げ込もうとしていた……。

舞台後方段上に棚橋が立っている。

棚橋　やはり、あの娘は殺せないか。純鈴ちゃんって言ったっけ、あのハイブリッド。なあ、思うんだけどさ……。俺たちは、天を裏切り地に下りし 200 人のグリゴリどもを殲滅するために、地上に落とされた。無慈悲にも翼をもぎ取られてさ。確かにグリゴリども、アーキタイプの殲滅は俺達の使命だ。だが、人との交わりで産まれたハイブリッドまで手をかけろとは言われてない気がするんだ。それは人伝てに……いや、天使伝てに、その伝言ゲームの中で現れた都市伝説みたいなもので……。アーキタイプだけならまだしも、すべてのハイブリッドを殲滅しろ、なんて命令に従うのはどだい無理な話だ。それに、グリゴリから人類に伝えられたネフィリムの秘術は、アーキタイプとハイブリッドをすべて殲滅したところで消え去りはしない。更なる天界の秘術の漏洩を防ぐべく、天は俺たちを使わした。そうだとすりゃ、ハイブリッドは殲滅対象じゃない。

樋村　秦はどう考えてる？

棚橋　秦もハイブリッドの扱いに関しては二の次と考えてるさ。ひとまず、すべてのアーキタイプを殲滅してみれば分かる。その時に地に光が満ち溢れ、荘厳な音楽が流れて、エンドロールとともに、俺たちの背中に翼が生え、天界へと浮かび上がっていくのなら、それで良し。もし、そうならなかったときには、ため息をついて、次なる戦略を練るまでだ。と……。

棚橋が退場し、舞台後方台上に入れ替わるように壬生が現れる。

壬生　分かる？ 距離をとるの。

樋村　距離を？

壬生　そう、適切な距離を。まあ、ハイブリッドである純鈴ちゃんを監視する目的なんだろうけど、克爾は近づきすぎている。これだけは言うておくわ。天使は決して人を愛してはいけない。もし愛してしまったら、私たちグリゴリと一緒にだわ。そして悲劇が訪れる。

樋村　待て、俺が純奈を愛している？ そんなことは……。

壬生　克爾。あなた〈天空の目〉で、頭上からあなた自身を見たことはあるの？

壬生が退場し、樋村一人となる。

樋村　〈天空の目〉で頭上から自分自身を見なかった俺に、やがて、匡子の予言通り悲劇が訪れる。

舞台後方台上に滝野、そして石間が現れる。

滝野 コーディネーターの朝井悟がくたばって「死に体」になった東亜建設の経理課長、伊藤伸彦（いとう・のぶひこ）がターゲットだ。そのまま、お行儀良く逝ってくれればいいものの、東亜建設は往生際が悪くてな。この男、義憤からか、それとも発狂したのかは知らないが、東亜建設が過去やってきたネフィリム建設の談合、それをマッポにチクるんだそう。折角、こっちが繊細の注意を払って築き上げた上松建設を中心とした新体制の今後にも影響しかねない。いや、確実に痛くない腹を探られて……。

石間 痛くない腹？ 痛すぎる腹だろうが。腐って腐臭が漂ってるんだから、蠅も寄ってくる。なあ、克爾、奴の口を封じてもらえねえか？

滝野 明日の午後、郡山だ。東北新幹線の郡山駅の裏手に土屋化学というでかい化学工場がある。そこの敷地内にウチの若いのが伊藤伸彦を連れ込む。当然マッポを騙ってな。そこで奴を殺れ。工場に話は付けてある。伊藤の死体は有機樹脂に混ぜ込まれて、産業廃棄物として捨てられる……。

樋村 その若いのにやらせたらどうだ。俺は嫌だ。

バシュッという音とともに閃光。

石間と滝野への明かりが消え、舞台袖に現れた純奈に明かり。

突然のフラッシュバック。樋村が一瞬固く瞑ったまぶたをゆっくりと開ける。

純奈 （酔ってろれつが回らない）なんだ、あんたいたの？ 純鈴？ 純鈴！ どのなの？

樋村 真夜中なんだ。純鈴は寝てい……。

純奈 じゃあ、起こしきてよ。あたしは純鈴とお話しがしたいの。

樋村 純奈、どうした？ 何か店であったのか？ もう辞めたっていいんだ。生活費は俺が……。

純奈 なに、私相手にお説教でも？ 余計なお世話よ。純鈴はどこよ。

樋村 だから、純鈴は寝ている……。

純奈 なに。他人が父親面か？ あんたはあの子の父親でも何でもなし。だから、あんまりべたべたすんな。……っていうか、あんた、あれだろ？ ロリコンなんだろ？ だから……。

と、こみ上げてくる吐き気。地べたに突っ伏して、吐き始める純奈。

樋村が駆け寄り、優しく音中をさすってやる。

樋村 大丈夫か？ 純奈……。

純奈が肩を振るわせながら、泣いている。恐ろしいほどに身体を強張らせて、むせび泣いているのだ。

純奈 触らないで！ 私に触らないで！

純奈が樋村を力一杯突き飛ばす。立ち尽くす樋村。

純奈 滝野さんが言ったんだ。克爾はただの人殺しだって……。石間組に雇われて人を殺す薄汚い人殺しだって……。

樋村 ……。

純奈 あたしだってうすうす感づいてなかったわけじゃない。克爾がどんな仕事を裏でしてるのか……。でも、嘘だよね。ねえ、嘘だよね。私、信じないから、そんなこと絶対に信じられないから。克爾があの人を殺したって……。悟を殺したって……。

バシュッという音とともに閃光。

純奈への明かりが消え、石間と滝野へと振り替わる。

滝野 嫌だ？ こら、樋村。何ほざいてるんだ、お前。

石間 なあ、克爾。ウチの若い奴は肝っ玉座った奴ばかりだが、「殺し」が出来るほどの度胸はねえ。なっ、俺とお前の仲じゃねえか。お前しかいないんだ。頼むよ。

滝野 おい。こうやってオヤジが頭下げてるんだ。お前は殺し屋。それしかできない男だろう。御託並べてねえで、郡山に行け。逃げるんじゃないぞ。明日、3月11日、午後2時45分、東北新幹線郡山駅裏手の土屋化学だ。

石間と滝野が退場し、立ち尽くす樋村だけに照明が当たっている（崩れ折れるように座り込んだ純奈もまだ舞台上にいるけど、ことさら光を当てておく必要はない）。

樋村 郡山に行く気など一切なかった。だが、足が勝手に向かっていた。滝野が言ったように「俺は殺し屋。それしかできない男」なんだろう。気付くと、郡山駅裏手の化学工場の敷地で、魂を持たぬ木偶人形のように俺は立ち尽くしていた。時計で時刻を確かめる。午後2時45分だ。石間組の連中はまだ到着していない。伊藤の拉致に手間取ってもいいのか……。俺は殺し屋。それしかできない男。自らの心を、その感覚を麻痺させるために人を殺す。それでしか弱い心を救えないから。拳銃を引き抜き、込められた弾丸（たま）と、リボルバーの作動を確かめる。その時だった……。

地鳴りのような音。

樋村 大地が振動している。地震か？

と、突き上げるような大振動。溜まらず倒れ込む。

樋村 突き上げるような振動。大地が波打つようにうねっている。化学工場の煙突がぶつ

かり合うように左右に揺れていた。大地震だ。一体何処で？ 携帯で情報を確かめる震源は宮城県牡鹿半島沖 130 km、マグニチュードは……。 (息を呑む) 純奈のことを考えた。純鈴のことを考えた。無事だろうか？ 〈天空の目〉を使う。(額に立てた指を翳す) ……あの海岸沿いの小さな街は、地震によって大きな打撃を受けていた。屋根瓦はすべて割れ落ち、多くの家が半壊の状態となっていた。純奈と純鈴は？ 近所の住民達が皆屋外に出て来ているが、アパートの周辺には純奈と純鈴の姿はない。まさか倒壊した壁に挟まれて……。嫌なイメージが頭をよぎる。(首を振って、そのイメージを振り払う)。〈天空の目〉で、小さな街を隅々まで探す。そして、見つけた。樽江海浜公園の中、ハマダイコンが咲くあの浜辺に純鈴がいた。よほど怖かったのだろう、座り込んで泣きじゃくっている。膝から血が流れ出していた。転んで怪我をしたのだ。でも、純鈴は生きていた。俺は大きく息を吐いた。俺は「純鈴」と声をかけた。はっきりと声に出して。だが、その声は届きはしないのだ。でも、呼びかけ続けた。「純鈴、怪我は大丈夫か？」、「足を挫いたりはしていないか？」、「純鈴、ママは？」ハマダイコンの紫色の花に囲まれて、純鈴は泣き続けている。こぼれ落ちる涙。それを首に巻いた紫色のスカーフで拭う。拭えば拭うほど、涙が止めどなく流れ落ちてくる。純鈴、大丈夫だ。純鈴は強い子だ。立ち上がって、ママを……。その時、俺は何か気付いた。低く唸るような警報が聞こえている。小さな街に設置されたラウドスピーカーからだった。

遠くで警報音が鳴っている。突如、滝野が舞台後方台上に飛び出してくる。携帯電話を耳に当て、大声を張り上げている。

滝野 ……なんだ、青木か？ 何が、やっとながった、だ！ 何だって？ 樋村が現れない？ くそ、あの野郎、臆病風でも……。 (怒りがこみ上げる) 青木、お前がやれ。首でも締めて、殺せ。でも……じゃねえ！ こっちはそれどころじゃねえんだ！ (と、電話を切り) ったく。(舞台袖に向けて叫ぶ) おやじ！ 車の用意が出来ました。早くこっちへ！

滝野が慌ただしく、舞台袖に駆け込む。

樋村 ……なんだ、この警報は？ 俺は何か大切な事を忘れているのか。この警報は一体……。宮城県牡鹿半島沖 130 kmを震源とする巨大地震。海底下で起きた地震……。 (忘れていたものが何であったのかに気づき、愕然とする)。申し訳程度の砂浜であるはずの海浜公園だが、今は潮が大きく引き、普段は決して目にすることがない海底に沈んだ岩や遙か海側まで露出していた。「純鈴、逃げろ！ 立ち上がって走れ！」俺は声を限りに叫んだ。だが、その声は決して純鈴には届かない。見えているのにこちらの声は届かない。純鈴は警報の音に怯えてしまい、身を固くしてしまう。「純鈴！」俺は走り出していた。どこをどの様に走っているかも理解せぬまま、ただ闇雲に走り続けた。そして、叫び続けた「純鈴、逃げろ！」空を飛べたなら、すぐさま純鈴の元に向かえたはずだ。だが、翼をもがれた天使は空を飛ぶことが出来ない。叫び

続け、走り続けたために喉は切れて、口中に血の味が広がっている。心臓も口から飛び出しそうになっている。だが飛べない天使は張り戻続けるしかない。〈天空の目〉の視界の端で、海面が大蛇のようにうねった。そのうねりは海岸に向かって恐ろしいほどの速度で近づいてくる。純鈴、お前にはそれが見えているか？ 身を固くして泣きじゃくる純鈴の目にはそれは映っていないのか……。その時だった。膝に顔を埋めて泣いていた純鈴が、顔を上げた。女だ。一人の女が、純鈴に駆け寄り抱き起こしたんだ。しゃくり上げる純鈴の涙を、紫色のスカーフで拭いて、優しく言った。「大丈夫。もう怖くない」白いコートを着た女だった。

樋村の傍らで、壊れた人形のような純奈が陰鬱な声で呟く。

純奈 ……純鈴は言ってた。真っ白なコートを着てるんだけど、そのコートには読めない純鈴には読めない漢字がいっぱい書いてる……。「お姉さんお名前はハローキティ」「ねえ、ママ、ママ。でもね、ハローキティのハローは〈こんにちは〉じゃないんだよ。ハローキティのハローは〈空っぽ〉って意味……」

樋村 ハローキティ。〈空っぽ〉のキティは純鈴を抱きしめて立ち上がった。そして、凶悪な牙を剥き、海岸線に迫り来る津波を見据えた。純鈴は彼女の胸にしっかりと顔を埋めていた。その耳元でキティが囁いた。「お前も同胞か」と。そして、突如顔を上げ、天を仰いだ。キティのふたつの瞳に、その刺すような視線に、俺の天空の目は焼き尽くされるかと思った。それほどに畏怖を感じさせる眼差しだった。固く結ばれた唇。噛み切るほどに唇を噛みしめて、女は天を睨みつけていた。だが、その表情がとても悲しげに見えたのは気のせいだろうか？ 大津波が二人を飲み込もうとしたその刹那。キティの背中に翼が生じた。天界でも目にしたことのないほどの大きな翼だった。翼が力強く羽ばたく。キティは純鈴を胸に抱いたまま、飛翔した。迫り来る津波を間髪すり抜けて、上空へと……。だが、波間から突如巨大な手が現れ、その身体を鷲掴みにした。キティの口から悲鳴が漏れた。そして、一瞬のうちに、キティと純鈴はその手に握りつぶされたのだ。四方に飛び散る血潮で真っ赤な霞がかかったように見えた。千切れて巻き上げられた天使の羽がふわふわと浮遊する。俺は叫び声を上げただろうか？ 口を開くことも出来ずに黙してそれを見ていたのか……。今となってはそれを思い出すことは出来ない。ただ、覚えているのは、〈空っぽ〉のキティが死の瞬間に純鈴に対して言った一言だ。それは……。

俯いたままの純奈が呟く。

純奈 ねえ、どうして、あんなに自信ありげに純鈴の遺体がここにあるって言ったの？ この海浜公園に……。あなた、見てたんでしょ。純鈴がこの浜辺に取り残されているのを。どこか近くの高台から。分かっていて、純鈴を見殺しにしたんでしょ？ 悟を殺し、純鈴を殺し、今度は私を殺すの？

ゆっくりと舞台が暗転していく。

6. 目を閉じることで見えてくるもの

スーパーインポーズされるテロップ。

「2015年3月10日 16:41 @F県浜通・壬生法律事務所」

舞台後方台上に棚橋。そこに秦が現れる。手に買い物袋を抱えている。

秦 ホームセンターで新しいバイナルシート買ってきたぞ。

棚橋 おっ、ご苦労さん。あの……練習がてら、残っているシートをバイクに貼り付けてみたんだけど……。どうかな？

秦 どれどれ。(と、バイクのタンクに張られたシートをまじまじと見て) おいおい。よくもまあ、こんな素敵なシワを全面にわたって、ものの見事にいれられるもんだな。棚橋、お前、京都丹後縮緬職人になれるぞ。俺が保証する。つーか、貼り直しは俺がやるから、お前、剥がす係な。

棚橋 剥がす係？ それだけ？ ヘルメットの装飾もまだ全然なんだけど……。

秦 ヘルメットも俺がやるから。(小さな声で) お前にやらせたら幼稚園児の工作なっちゃう……。

棚橋 なに、幼稚……？

秦 いいから。棚橋は剥がす係。

棚橋 (自ら貼ったシートを剥がそうとする) 折角貼ったんだけど……。

秦 ダメなもんダメだから。

棚橋 とほほ。(と、勢い余って、シートをビリッと破いてしまう) あっ、破けた。

秦 破けたって、お前……。 (と、惨状を見て、気を失いそうになる) なんつう芸術的な破き方なんだよ。ぎざぎざになってるじゃん。これ先端一個一個、爪でコリコリしなきゃなんないでしょ。もういい。お前、応援係。

棚橋 応援係？ じゃあ、ガンバレ、秦。ガンバレ……。

秦 うるせえ。心の声で応援しろ。

棚橋 (無言で応援するが、動きがウザイ)

秦 動くな。気が散る。

棚橋 (しゅんとするが、すぐさま立ち直り、いたく真面目な声で) なあ、秦。

秦 なんだ？

棚橋 よりにもよって、樽江浜公園とはな。出来ることなら二度と立ち寄りたくないところだ。嫌な思い出が蘇る。

秦 俺も同意見だ。だけど、樋村にとっちゃ、俺たちどころの騒ぎじゃない。樽江浜公園は嫌な記憶の国際見本市だろう。

棚橋 そんなところに樋村を一人で行って大丈夫か？

秦 俺たちが付いていってどうなる？

棚橋 分からない。でも、俺はただ心配なだけで……。

秦 忘れようとしても忘れることの出来ない記憶。それから逃げ回ってばかりいると、その記憶はますます調子こいて、責め立ててくる。心を蝕んでくる。正しい対処法

は、それと真っ正面に向き合うことだ……とか。

棚橋 樋村は今、過去の記憶と対峙している……そういうことか？

秦 そういうことだ。俺たちにしてやれることは、おそらくない。まあ、応援ぐらいかな。応援してやれ、応援係！（と、剥がしていたシートがビリッと裂ける）うわあ、やっちまった！ ぎざぎざ、更に増えちゃったし。最悪……。

台上の明かりが消え、スクリーン上にテロップ。

「2015年3月10日 21:41 @F県浜通・石間組事務所」

舞台中央に現れる石間、滝野、そしてアルマロス。

滝野 明日の昼過ぎに、日本ネフィリム開発の専用トレーラーがサタナイルを乗せて樽江海浜公園跡地に向けて出発します。これは公式な輸送計画ではないですが、警察機関にも応援要請をしています。

石間 どうやって？

滝野 代議士先生を通じて。警察は権力に弱い。「時の権力」に対して極めて従順です。自らの善悪の判断を放棄している馬鹿どもですので、こんなに扱いやすい集団はありません。

アルマ ヤクザ以上に？

滝野 そう。ヤクザ以上に。

石間 まあ、この「日本最大の広域暴力組織」を味方に付けておけば、鬼に金棒、恐れることはなにもなし、ということだ、アルマ。

滝野 なお、トレーラーにはアルマが同行する予定ですが、我々はどうしますか？

石間 我々？ って、儂か？ 儂が同行？ なんで？ お前、樽江海浜公園で直下型地震が起きるんだぞ？

滝野 はい。内陸直下型地震、マグニチュードは6前後とあまり大きくはないと予想していますが……。

石間 滝野、お前地震怖くないの？

滝野 正直に言えば、怖いですよ。

石間 だよねえ。

滝野 どうします？

石間 そうだ。磐梯熱海温泉でも行くか？ 後はアルマに任せて……。

アルマ おい。

滝野 仕方ないですが、そうしますか？

アルマ お前もか？

滝野 ただ、地震が怖いので、磐梯熱海温泉ではなく、もっと遠くの温泉の方が……。

石間 馬鹿が、遠くにに行ったら、儂らが計画した折角の直下型地震をちっとも体感できないじゃないか！

滝野 そういことですか。まあ、磐梯熱海温泉はネフィリムからも震源地からも50km以上離れていますし、いざなにがどうなっても、どうにか対応可能でしょう。

アルマ いざなにがどうなっても、ってなんだ？ 何がどうなるんだ？ つーか、全部、私

に任せて、温泉三昧か？
石・滝 うん。(満面の笑顔で、力強く頷いて)
石間 2時46分。その時に、儼らは露天風呂の中で祝杯だ。日本酒キュ、だ！
滝野 いいですね、それ！
アルマ って、おい！

舞台前方の明かりが消え、三人が退場する。
舞台後方台上のスクリーン前に飛び出してくる純奈。
スクリーンに映ずる瓦礫だらけの海岸。

純奈 純鈴！ お願い。もう、かくれんぼはおしまい。出て来て、純鈴……。 (力尽きて、倒れ込む) お願い……。ママのところに戻ってきて！ 純鈴。ミラノ風ドリア食べに行こう……。

その声はかれはてている。瓦礫の中を何日間も彷徨っていたのだろう。服は裂け、体中傷だらけだ。
背後に樋村が現れる (サングラスはしていない)。

樋村 純奈……。避難勧告が出ている。ここには……。
純奈 だめ。私は純鈴を捜しているから。純鈴と一緒にじゃなくどこにもいかない。
樋村 純奈。純鈴は……。
純奈 純鈴はここにいるんでしょ？ そう言ったのはあなたじゃない……。狂ったように瓦礫をどけて、声をからして「純鈴！」叫んでいたのは誰よ。純鈴はここにいるの。隠れているの。そして、私に見つかるのを、息を殺してじっと待っている……。
樋村 (純奈に近づき、肩に手をかける) とにかく、ここにはいけない。ネフィリムがメルtdownを起こしているんだ。純奈の身体が蝕まれ……。

純奈がひきつけでも起こしたように身を強張らせ、樋村の手を振り払う。

純奈 触らないで！ 人殺し！

立ち尽くす樋村。純奈とともにその絵ヅラでストップモーション。
舞台前方両翼に壬生、棚橋、そして秦が現れる。

棚橋 どういうこった、それ。突然、翼が見え始めたって。
壬生 最初は何も見えなかったの。でも、あの大洪水の後、辻井純奈の背中にダークウィングがはっきりと……。
棚橋 グリゴリか？
壬生 またはかなり血の濃いハイブリッドか……。彼女の出身は仙台市、この混乱に乗じて……って言い方は嫌だけど、彼女の戸籍謄本を調べてみた。辻井は母方の名字。

父親を幼いときになくしている。かつての彼女の名前は荒木純奈。そして、父の名は……。

秦 荒木晴彦（あらき・はるひこ）。

壬生 （こっくりと頷いて）隠匿の秘術を弄するグリゴリ、アラキバ……。

秦 奴は自らの強力な魔法を包み隠す秘術を持っていた。

壬生 それが私の〈イントロスコピー〉をも欺いた。

棚橋 それって、20 年前、仙台で……。匡子が逆に殺されそうになった例のあれか……。

壬生 辻井純奈はその強力な魔力を父親から受け継いでいる可能性がある。翼を隠す〈秘匿の秘術〉が遺伝されて引き継がれているなら、アラキバの持つ強力な魔力の一部も引き継がれている可能性がある。

秦 つまり、ハイブリッドであるが、純奈は樋村を殺すことが出来る。

壬生 アマダスの弾丸に頼ることなく、アラキバから受け継いだ強力な魔力で……。

棚橋 なあ、アラキバを葬ったのは樋村だよな。樋村は自分で殺した男の娘を愛したってことか？

壬生 「愛」かどうかは分からないけどね。

秦 樋村はこの事実を知っていると思うか？

壬生 さあ……。でも、まるでギリシャ悲劇ね。ソポクレスの書いた「オイディプス」。父親を殺し、母親を娶ったオイディプスが、その事実を知り、自殺した母にして妻であるイオカステのブローチで自らの目を突いた……。オイディプスは目を突きながら、こう叫んだの。「目があるのに、私には何も見えていなかった」と……。

照明が舞台後方台上へと切り替わる。

純奈 ねえ、どうして分かったの？

樋村 ……。

純奈 答えて。ここに純鈴がいるってどうして分かったの？

樋村 ……見えていた。だから、力の限り走った……。

純奈 嘘よ。見えているのに、助けなかった。

樋村 見えているのに助けることが出来なかったんだ。

純奈 どうして？

純奈が瓦礫の中から鋭利な先端を持つガラス片を拾い上げる。

純奈 あなたは純鈴を見殺しにしたの。あなたは悟も殺した。どうして私から、すべてを奪い取っていくの？ 私のすべてを！

純奈がガラス片を握り締める。白い肘を伝わって幾筋もの血が流れ落ちる。

それを見かねて、樋村が純奈に近づく。純奈の手を自らの手で包み、ガラス片を握りしめた純奈の手をゆっくりと開かせようとする。

泣いていた純奈の表情に、一瞬邪悪な閃光が走る。

と、突如驚異的な瞬発力を発揮した純奈が、樋村を引きずり倒し、その上に馬乗りとなる。

滂沱の涙を流しながらも、ガラス片を頭上高く振り上げて、叫ぶ！

純奈 見えているのに助けられないのなら、そんな目なんかなくていい！

手に持ったガラス片で樋村の左目を突く。
スクリーン上に飛び散る鮮血。

純奈 これは悟の分。そして……。

純奈がガラス片を頭上高く振りかぶる。

純奈 これは純鈴の……

ガラス片を右目に向けて振り下ろそうとした刹那、轟く銃声。
純奈の額に小さな赤い点が生じ、後頭部から血と脳漿が霧となって拡散する。
制止した純奈。その腕が力なくだらりと垂れる。

樋村 純奈！

樋村は叫び、純奈を抱きしめる。
舞台前方袖よりに秦、棚橋、そして壬生。
銃弾を撃ちはなったのは秦である。

樋村 秦、どうして撃った？

樋村が声を限りに叫び、台上から舞台中央に飛び降りる。
その左目はガラス片によって著しい損傷を受けている。

壬生 （秦の代わりに答える）辻井純奈はハイブリッドだった。

樋村 嘘だ！

壬生 イントロスコピーよ……。

樋村 そんなもの、お前しか見えないのだから、どうとでも言える……。

秦 お前の身体がそれを証明するはずだ。

樋村 俺の身体？

秦 辻井純奈に突かれたお前の左目は一生再生しない。

壬生 もし、人間がそれをやったのなら、すぐにでも再生を開始するはず。でも、それがグリゴリの同胞（はらから）によって負わされた傷であるなら……。

樋村 嘘だ。この傷は……。この傷は再生する。秦、お前どうして撃った？ （秦に拳銃

を向ける)

棚橋 待てよ、お前、辻井純奈に殺されるところだったんだぜ。

樋村 俺は純奈に殺されていていいと思っていたんだ。

秦 じゃあ、撃てよ。俺もお前になら殺されていていいと思っているから。

壬生 博！

棚橋 本気か？

秦 本気だ。撃てよ。お前の愛する者を撃ち殺したんだ。お前に撃ち殺されて当然だ。

棚橋 (樋村に銃を向け) やめろ、樋村。お前が引き金を引く気なら、その前に俺が引き金を引く。お前に秦を殺されちゃ敵わねえ。

秦 棚橋。(棚橋に銃を向け) お前に樋村を殺されちゃ敵わねえ。なあ、樋村、お前が引き金を引く気なら、その前に棚橋が引き金を引く。だが、それより前に俺が引き金を引く。つまり、お前が引き金を引こうとした途端、棚橋が真っ先に死ぬことになる。

棚橋 なんでだよ。何でそうなる？

秦 何でだろうな。原因は……樋村が憎しみで引き金を引こうとするからか、それとも俺が殺されてもいいなんて自暴自棄になったからか、そのどちらかだ。またはその両方か。でもそれが一番いいかもな。

棚橋 おい。なに言ってるんだよ。

秦 この状況で、俺が撃ち殺されたら、お前は樋村を憎むことになる。樋村がお前に撃ち殺されたら、俺はお前を恨む。憎しみが増幅するんだ。

壬生 だけど、晃が撃ち殺されたことで、どちらかの憎しみがこれ以上増えるということはない、か……。斯くして更なる憎しみの連鎖は回避される。

棚橋 (起こって怒鳴る) どんな理論だよ。

棚橋が銃口を下げる。それに呼応して秦も銃口を下げる。
と、樋村の銃口もゆっくりと(とてもゆっくりとした速度で)下がっていく。

秦 憎しみで引き金を引く。殺されたいと思って引き金を引く。そうやって感情のままに引き金を引いていたら、憎しみが増幅していくか、関係のない誰かを殺してしまうことになる。樋村、俺は感情のままに引き金を引いたことはない。憎しみから引き金を引いたことは一度もない。俺の仕事はグリゴリの殲滅だ。仕事として引き金を引くまでだ。そして、仲間を殺そうとする者に対しても、感情からではなく、仲間を守るために引き金を引く。心がないわけじゃない。他人の痛みや悲しみ、怒りを理解できないわけじゃない。誰かを殺したら、誰かに恨まれ、誰かに殺される。至極当然のことだ。(ポケットから、一発の弾丸を取り出し、樋村に示す) 憎しみから俺を撃ち殺したいときにはこの弾丸を使ってくれ。アマダス増量、貴重なアマダス金属を贅沢に5倍使った特製弾丸だ。これだと少し派手に死ねそうだ。だが、俺を撃つのはすべてが終わったその時にしてくれないか。それまでは俺たちは仲間だ。同じ目的を持った仲間だ。

秦が弾丸を樋村に渡し、退場する。棚橋と壬生も退場する。

弾丸を握りめる樋村。持っていた銃を仕舞い込み、代わりにサングラスを取り出しかける。

樋村 あれから4年経つ。純奈。お前はまだ、俺のことを恨んでいるか？

純奈 （死体の純奈がそのままの形で答える）当たり前じゃない。愛する人を殺し、娘を見殺しにした男だもの。

樋村 見殺しにはしていない。

純奈 そうかしら。でも、克爾。私が撃たれてもう4年にもなるのね。そんなに経ったのに、私はまだ死ぬことが出来ないの。信じられないことに……。

樋村 俺も、信じられないことに、4年経っても左目の傷は再生される気配がない。

純奈 聞いたでしょ？ それは、私もグリゴリの同胞だったってこと。自覚はなかったけどね。仲間の言うことを信じなきゃ、克爾。あっ、そうだ。今、思い出したわ。私の父親も誰かに殺されたんだ。私が小さい頃。私が純鈴よりもっと幼かった頃に。グリゴリだったのかな？ そして、それを殺したのが克爾？ 私の名字の辻井は母の旧姓。父親の名字は……。

樋村 （純奈を制して）いい。聞いたら思い出してしまいそうだ。

純奈 克爾はね。きっと私に関係する人をたくさん殺してきたんだと思う。克爾は意識下でそれを知っていて、だから私のことを大切にしようとした。でも、私はグリゴリの同胞。私の血が、私自身をグリゴリのいる方へと導いてしまうの。だからグリゴリを愛し、グリゴリの同胞を産んで、血が濃いその子を愛したのかなあ。

樋村 純奈。俺たちは……。

純奈 別の側に立つ者。同じ天使の仲間なのにね。（と、唐突に）ねえ、克爾、見て！ もうすぐ太陽が昇ってくる。水平線からゆっくりと。夜のお店が終わっての送迎とき、いつもこの海浜公園の前で車を降りてたんだ。水面をキラキラと輝かせて登ってくる太陽をうっとり眺めてた。太陽のすべてが顔を出すとさすがに眩しくなってきた、直視するのが辛くなってくる。そんな時にはこうして瞼を閉じた。瞼を閉じても太陽の位置は分かるの。輝きと暖かさを肌で感じ取ることが出来る。

樋村 瞼を閉じることで、逆に見えてくるものがある。

純奈 克爾も目を閉じてみてよ。何だっけ、その何とかなの目も……。

樋村 〈天空の目〉を閉じる？

純奈 そう。瞼を閉じることで、逆に見えてくるものがあるかもよ。

樋村 俺は瞼も閉じ、〈天空の目〉も閉じてみた。だが、何も見えなくなったわけではない。光をその熱を肌で見ることができた。そよ風を髪の毛で見ることができた。匂い。花の香りが向こうから漂ってきた。どこかで嗅いだことのある匂い……スミレの花の香りだった。スミレが咲くにはまだ時期が早い……。だが、その香りが紫色のイメージとなって見え始めた。その方向にゆっくりと歩く。瓦礫に足をすくわれ何度も転んだ。巨大なコンクリートの残骸に行く手を阻まれ、回り道をしなければならなかった。だが、その紫色のイメージに向かってゆっくりと進んでいった。その向こう側から小さな声がした。

純鈴 おにさんこちら、てのなるほうへ……。

樋村 屈託のない笑顔が見えた。天真爛漫に走り回る姿が見えた。

純鈴 （残念そうに）見つかった。ちやうど。

樋村 純鈴がそこにいた。瞼を開いたら、すべてが淡雪のように消えてしまいそうだった。だから、固く目を閉じたまま、声のする方へ手を延ばした。指先が何かに触れた。花びらのような何かだ。

純鈴 おにさん。もう、目を開けていいよ

樋村 純鈴の声がした。こわごとと瞼と〈天空の目〉を開く……。瓦礫の間に隠れるようにして咲く一輪のハマダイコンの花だった。……いや、そうじゃない。手に触れているそれは……紫色のスカーフだった。その大半は砂の仲に没していたが、ゆっくりと力を入れると、まるで待っていたかのように簡単に引き抜けた。

樋村の手の中に紫色のスカーフが手品のように現れる。

純奈 克爾？ それは……。

樋村 純鈴が首に巻き付けていたスカーフだ。〈空っぽ〉のキティからもらったもの。純鈴がここにいた。

純奈 純鈴？

純鈴 ママ？

純奈 （深く息を吐いて）純鈴。こんなところに隠れてたの？ ママね、いっぱい探したんだよ。純鈴を見つけようと……。

純鈴 うん。知ってるよ。

純奈 本当に長いかくれんぼだったわね。寂しくはなかったの？

純鈴 お姉ちゃんが一緒にいたから。

純奈 おねえちゃん？ ああ、ハローキティさん。

純鈴 うん。ずっと「しりとり」をした。

純奈 4年も、しりとり？

純鈴 5 3 4 8勝 5 3 4 7敗で純鈴の勝ち

女の声がする。「正しくは、5 3 4 8勝 5 3 4 7敗 1分け。今の勝負の決着が付いてない」

純奈 初めまして、ハローキティさん。ママ、ちゃんとお挨拶しなくちゃね。でもね、ママ……もう、お空に向けて旅だって行かなきゃならないみたいなの……。

スクリーンを背にして座っている純奈の背中から翼が現れて、スクリーン全体に広がる。

純奈が微笑んで両腕を前に伸ばす。

純奈 純鈴。こっちへ来て。

純鈴 うん。ママ……。

我が子を抱きしめるように曲げられていく両腕。頬すりするような仕草。
広げられた翼が一度大きく羽ばたく、羽毛がふわりと宙を舞う。
と、真白き翼が腐り、炎を上げ、溶け落ちる。
身体を抱きしめるようにして縮こまる純奈。その身体は微動だにしない。
樋村が紫色のスカーフを愛おしく抱きしめて泣き崩れる。

テロップ。

「2015年3月11日 7:34 @F県浜通・樽江海浜公園跡地」
アザゼル死処、特定

7. すっかりお忘れのことと思いますが、秦さんが大変なんです

暗がりにテロップイン。

「2015年3月11日 14:00 @F県浜通・国道6号線上」

明かりがつくと秦がいる。背中に白いフレームザックを背負っているが……いや、フレームザックじゃない。あれは族単車特有の「三段シートの背もたれ」に違いない！ 参考資料（↓）



秦の頭上 30cm の高さのある背もたれには旗が突き立てたれている。秦の頭上に旗だ……笑える。そんなことはどうでもいい。たなびく旗には禍々しい「惨璃悪」の文字。そして、「走死走愛」（または「夜露死苦」、「愛死天流」でも OK）。

秦 皆さん、もうすっかりお忘れのことと思いますが、作戦当日、秦さんは大変なことになっていたんですね。

と巻き起こる幾多のバイクの排気音・走行音。6 音ホーンが高らかに鳴らすゴッドファーザー。きらめくヘッドライトが蛇行しながらこちらへ向かって走行してくる映像。

バイクのハンドル（ヘッドライト付き）を握りしめた「惨璃悪」の親衛隊長マイメロディ【魔威旋律】と副長シナモロール【屍南無巻】がブンブン叫びながら飛び込んできて、縦横無尽に走り回る。

秦 こら、君たち、もう少し普通に走ったらどうなんだ。
魔威 るせーんだよ。「惨璃悪」が普通にちんたら走ってどうすんだよ。

と、極端な蛇行走行を開始。シナモロール【屍南無巻】も蛇行を開始。当然その後ろに持っている秦もそれに合わせて蛇行をする。と、口をぱんぱんにした秦がシナモロール【屍南無巻】の肩をぱんぱん叩き、首を激しく横に振る。

屍南 （と、平常走行に移り）吐きそうか？ これくらいで酔ってどうする、オヤジ？

秦 （ひとくちゲロを一気に飲み下し）はあ、良かった。大切なキティの特攻服にカプチーノだけじゃなく、ゲロチーノをかけちゃうとこだったぞ！

魔威 おい、おっさん。それやりやがったら、ここで引き摺り落として、単コロで 108 回ひき殺すぞ！ ブーン、ブンブン。

秦 108 回とは執拗な……。そんなに轢かれたら、罪と垢にまみれたこの俺が、汚れなき無垢な骸になって、聖人（セイント）になって昇天しちゃうぞ。

屍南 ブーン、ブンブン、昇天じゃなくて、地獄へ墜る……だろ？

秦 （何かに気付いたようだ）ちょっと待って、この「ブーン、ブンブン」って絵ヅラ、どこかで……（で、思い出す）そうだ、「悲しいときー」だ！ 何つったっけ、あのお笑い芸人？ コンビ名……。

屍南 なに、一人でぼざいてる？

秦 この絵ヅラのお笑い芸人の名前が思い出せない。なあ、頼む。言葉の前に「悲しいときー」って枕を付けてから何か言ってみてくれ。

屍南 ばあかか。何が悲しくて「悲しいときー」って言わなきゃなんねえんだ？

秦 違う！ 「悲しいときー、何が悲しくて『悲しいときー』って言わなきゃならないときー」と言ってくれ。

魔威 ブーン、ブンブン。手前が何かお願いできる立場かよ。

秦 それも違う「悲しいときー、自分が何かお願いできる立場じゃないときー」だ。

魔威 なんだ、そりゃ！

秦 あっ！ 思い出した。コンビ名は「いつもここから」だ！

魔威 はあ？ 手前はそんな前向きな状況にやねえ。

屍・魔 「すでにここまで」だ！

秦、シナモロール【屍南無巻】に頭突き、マイメロディ【魔威旋律】に蹴りを喰らい、大層痛がる。

屍南 マイメロディ【魔威旋律】、マッポの動きは？

魔威 PC 無線ずっと聞いているが、うちらを警戒している気配はねえ。ただ……。

屍南 どうした？

魔威 向かう先に、マッポが集まってる嫌な気配が……。

屍南 向かう先って……。6 号線の？

魔威 そうだ。その先の瓦礫が積み上げられただけの立ち入り禁止の海岸に、だ。

屍南 なんでだ？

魔威 分からねえ。

秦 この先にマッポが集結？ そうか、きっと俺を救いに！

屍・魔 んなわきゃねーだろ！

魔威 マッポごときに止められるわきゃねーんだ。あたしらを誰だと思ってる？

秦 （頭上の旗を指差し）「惨璃悪」。「元」だけど……。

魔威 泣く子も黙る「惨璃悪」だぜえ。マッポもびびるスゲえのが今日も一緒につるんだ。

秦 マッポもびびるスゲえのって？

と、黒縁眼鏡の棚橋解説委員が舞台後方台上に飛び込んでくる！

棚橋 解説しよう！

秦 棚橋解説委員！ すげえ、走ってバイクに付いてきている！

棚橋 （バイクの速度に負けないように走っている）北関東にもその名をはせた「惨璃悪」を甘く見てはいけない。マッポですら尻尾を巻いて逃げ出す極悪キャラが満載だ。

秦 極悪キャラ？

棚橋 そう！ では「惨璃悪」の人気キャラクターを紹介しよう！（全速力で走っている）まず最初に控えしは！ 命知らずの暴走双生児リトルツインスターズ【痢盗連星ズ】！ 顔も特攻服も同じ。跨がる単車も同一のトゥインクルスターデザインのCB250！ 遺伝子レベルの分身の術でマッポを攪乱だ！



スクリーンに投影される極悪キャラクター
暴走双生児・リトルツインスターズ【痢盗連星ズ】

秦 おお！ 最後がカタカナの「ズ」だ！

棚橋 （まだ走っている）そして、豪傑破壊者ピンクツインテールぽんぽんりぼん【梵々裏煩】ピンクに脱色された可愛らしいツインテールに騙されるな！ ショッキングピンクカラリングのスズキ GS400 は無慈悲な破壊者の印だ！



スクリーンに投影される極悪キャラクター
豪傑破壊者ピンクツインテール・ぽんぽんりぼん【梵々裏煩】

秦 つーか、当て字がスゲえ！

棚橋 （まだ走っている）こいつを忘れちゃいけないぜ！ 見た目は老け面、でも中身は手の付けられねえ人食い熊・フランボアルウルウ【腐乱婆琉琉】！ 燃え上がる赤い炎のペインティングは、この暴れん坊の愛車 Kawasaki Z400 だ！



スクリーンに投影される極悪キャラクター
見た目は老け面、中身は手の付けられねえ人食い熊
フランボアルウルウ【腐乱婆琉琉】

秦 すげえぞ、この当て字！ 腐乱婆琉琉って怖すぎる！ つーか、イカ天に確か似たような名前のバンドが……あっ、「サイバーニューニュー」だ！ メカ・エルビスが……って、誰も憶えちゃいねえか。

魔威 （ブンブン、スロットル回して秦に近づいて）びびったか、おっさん！

秦 びびった、びびった、いろんな意味でびびった。

魔威 でもよ。このメンツにあいつがいたら……。 (口惜しそうに) あいつがいたら最強なのに……。

秦 あいつ？

屍南 楓……。

秦 か・え・で……？

屍南 特攻隊長、楓。

魔威 人呼んで「釘バットの楓」。

秦 釘バットの……楓？？ 棚橋解説委員！

追加情報が欲しくなり棚橋解説委員を振り返るが、さすがに疲れたようで、走るのをやめ、休んでいる。秦と目が会い、ばつ悪そうにはにかみがちに微笑んだ後、突如走り出す！

棚橋 「惨璃悪」の特攻隊長、楓。人呼んで「釘バットの楓」。命知らずの大馬鹿野郎だ。ヤツの駆るパールホワイトの MR2 をみただけで、北関東中のレディースがーいや、暴走族（ぞく）のすべてが震え上がったと聞く。

スクリーンに叩き付けられるように投影される「特攻隊長、楓」、「人呼んで『釘バットの楓』」の文字！ 真っ白に輝く MR2 のボンネットの縁に小さなハローキティのステッカーが貼られている。「惨璃悪」のマークだ。ドアが開いて、現れる一人の女の子の後ろ姿。真紅の特攻服の背中。そこには「喧嘩上等」の刺繍。手にした黒塗りの木製バットには無数の釘が渦々しく生えている。それを引き摺り、振り上げて肩に担ぐのを背中側からカメラが捉える。激しい逆光の中、彼女の顔は見えない。渦巻いていたバイクの走行音が長いディレイを伴って不意に止む。舞台奥台上に大念が立っている。手に持ったスマートフォンを見つめている。

秦 またスマホ見てるな？

大念 ラインだよ。でも、既読を付けずに見てるだけ……。

秦 複雑だな。

大念 ちっとも複雑じゃない。ちょっとした裏技。「機内モード」で確認すれば……。

秦 俺が複雑だと言ったのは、既読付けずにライン読んでる楓ちゃんの心境の方だ。なあ、話してくれたら、牛角の食べ放題奢ってやる。

大念 あほか？

秦 牛角プレミアムコース。霜降り上タン塩が絶品だ。俺の分のデザート、アールグレイのなめらかプリンもお前にやる……。

大念 (ため息をひとつ付き、意を決して口を開く) ねえ……。

秦 どうした？

大念 もしかしたら、役立つかもしれない情報があるんだ。“コンボイ”へ近づくのに……。

秦 情報？

大念 そう。(と、スマートフォンの画面からやっと顔を上げ、秦を見つめる。で、当然の

如く驚いて) おっちゃん、なに背負ってる？

秦 (突っ込みに動揺を隠せず) あああ、これ？ 回想シーンなんだが、芝居の構成上、つーか、小道具の性質上、よっこいしょって降ろすわけにもいかず…… とりあえず見えないことにしてくれたら、超有り難い。(気を取り直し) で、役立つ情報ってなんだ？

大念 その日、浜通りのレディースが徒党を組んで走るようになってる。大広江浜公園まで。レディースっていうのは女だけの暴走族のことね。レディースの名前は「惨璃悪」。でも今は解散している。

秦 かつて海浜公園だった瓦礫だらけの浜辺に、かつて暴走族だった者達が徒党を組んで向かうのは何故だ？

大念 「惨璃悪」の総長(あたま)、ハローキティがそこで死んだから。4年前のその日に……。

秦 あの大洪水に巻き込まれて、か？

大念 そう。それを期に「惨璃悪」は解散し、みんなばらばらになった。でも、ハローキティの命日に残党が集まって「弔い走行」をするんだ。

秦 どうしてそれを知っている？

大念 その時の私はこう呼ばれてた。「釘バットの楓」……。

スクリーンで背中を向けていた真紅の特攻服の女が釘バットを肩にかけたまま振り返る。振り返った女は大念楓だった。腹の据わった低い叫び声。

「喧嘩上等！」

ディレイを伴って、映像が派手に爆散し、消える。

大念 仲間ばらばらになっちゃったけど、その多くは「弔い走行」だけには集まってるみたい。

秦 さっき見てたラインがそれか？

大念 (こっくりと頷く)

秦 楓ちゃんは参加したことがないような口ぶりだけど……。

大念 私ね。キティが死んで、文字通り目が醒めたんだ。楽しい夢の世界から、突然現実世界に引き戻されたように……。みんなだってそうだったはず。キティの後ろを走ることが……それだけがすべてだった。キティがいなければ意味がなくなる。みんな現実世界へ戻ろうと必死で足掻いた。夢の中で半端なく走ってた連中は、今度は現実世界で生きていくために半端なく頑張ったんだ。キティの斜め後ろを走っていた副長のシナモロールは、今は銀行の窓口で働いてる。

秦 (目を丸くして、シナモロールを見やる) えええええっ、銀行員なの？ 超お堅いじゃん！

大念 すぐ脇に控えてた親衛隊長のマイメロディは、公務員試験に合格し、市役所の出納係になったって。

秦 (まだ魔が落ちこちそうになるほど目を見開いて、マイメロディを見やる) ここここ、公務員ってか？ くおいつぐあああ？

大念 みんな必死に頑張ってる、そしてまともな生活を送ってる。でも、この日だけは、この特別な日だけは集まってキティを吊うために走るんだ。この「吊い走行」のために、私も変わらなきゃ……。悪を倒すために正義の弁護士になろう。どだい夢みたいな話。実際は小さな弁護士事務所で事務のアルバイト……。頑張ってるみんなに頑張ってる姿を見せたかった。でも、出来なくて……。「吊い走行」にも顔を出せないどころか、ラインにスタンプ押したこともない。4年にわたって音信不通。みんな、きっと私のことなんか忘れちゃったんじゃないかな。いや、裏切り者って疎まれてるかも……。

秦 そんなことないんじゃないかな、楓ちゃん。

大念 （ゆっくり首を横に振り、唇を噛む）仲間に迷惑はかけたくないから、言わなかったけど、でもきっとこの「吊い走行」は“コンボイ”とぶつかり合う。だから……。だから、「惨璃悪」を守ってやって欲しいんだ。私には出来ないけど、おっちゃんなら……。

秦 ひとつ聞く。「惨璃悪」の連中を心底怒らせるには、どうしたらいい？

大念 キティの白い特攻服。それを汚されたら、きっとただじゃすまない。だって、みんなそれを崇拜してるから。レプリカなのにさ……。

秦 レプリカの特攻服か……。

大念 ねえ、秦さん。みんなを守って。お願い……。

今にも泣き出しそうな大念の表情。

大念がくると踵を返し退場すると同時に、バイクの走行音が戻ってくる。

マイメロディ【魔威旋律】とシナモロール【屍南無巻】がブンブン言いながら走り回っている。秦もそれに伴い一緒に走り回るしかない。

後方で柵橋解説委員も当然全速力で走っている。

屍南 確かに、うちの一番ケツを守ってくれる特攻隊長の楓はいない。でも、この特別な日に、ハローキティのために走るうちらを誰が止められるって言うんだ？

魔威 おう、当たり前だ！ 今日は特別な日だ。マッポだろうが何だろうが全部撃破だ！

秦 大丈夫かマイメロディ。お前、へたすりゃ、お役所で懲戒処分だぞ？

魔威 懲戒怖くて、走れるか！

柵橋 こちら柵橋解説委員です。解説が終わったんでもう楽屋戻っていいですか？

秦 もうすぐ暗転だ。そこまでがんばれ！

柵橋 次のシーンのために着替えをしないと……。

秦 じゃあねえな、じゃあ戻れ。

柵橋、こっくりと頷いて退場。

魔威 （片耳にしたイヤホンを突いて）シナモロール！ やっぱり、先の様子が変わった。拙攻飛ばすが、いいか？

屍南 飛ばせ！
魔威 リトルツインスターズ【痴盗連星ズ】！ 先言って偵察してこい。状況はラインで送れ。

秦 （シナモロールのハンドルをのぞき込み）ハンドルにスマホが固定されている。つか、「惨璃悪」の電腦化、恐るべし！

バイクの爆音！

秦の両脇を二台のバイクが走り抜けたのだ。

ブーン、ブーンとドップラー効果を効かせた効果音が上手と下手で続きざまに響く

秦 （左右を見て）なんだ、なんだ？（と正面を凝視し）トゥインクルスターデザインの二台のCB250！ これが暴走双生児・リトルツインスターズ【痴盗連星ズ】！ マジで同じデザイン、後ろ姿そっくり！ すげえ、区別付かない……。

バイクの走行音が高鳴る。高らかに鳴る6音ホーンのゴッドファーザー。

楽しげにブンブン叫びながら走り回るマイメロディ【魔威旋律】とシナモロール【屍南無巻】、そして秦。棚橋だけは必死に走っている。

舞台がゆっくりと暗転していく。

8. 弾丸で無理なら、釘バットで止めてやる

舞台前方上袖に大念と但峰。MR2 の車内だ。大念はハンドルを握っている。
「その白の MR2。停車しなさい」とスピーカーから漏れる（福島訛りの）声。

大念 止まれるか、ぼけ！
但峰 至る所パトカーだらけ。国道沿いの警察車両が全部、樽江海浜公園に回ったら……。
大念 （唇を血が出るほど噛みしめた後、意を決して）あたしのポケットからスマホ出して。
但峰 はい。（と、言うとおりにする）

ハンドルを切る。タイヤがアスファルトを削る音。

大念 電話のリスト出して。関東極悪連合・高萩エンペラー・小夜鬼（さよき）……。
但峰 （スマホを弄って）はい。ありました。関東極悪連合・高萩エンペラー……。 「小」
さな「夜」の「鬼」と書いて、「さよき」ですか？ ……って、なんですか、この関東極悪連合って！
大念 いいから、電話！
但峰 はい。（びびりながらもボタンを押して、スマホを大念の耳元に向ける）
大念 もしもし、小夜鬼。楓だよ。

小夜鬼の声。「マジかよ。本当に楓かよ。4 年ぶりにお前の声を……（周りのみんなに言う）おい、マジだ。釘バットの楓からだぜ！（周りのみんなが、わーとかきやーとか、声を上げるのが聞こえる）」

大念 懐かしがってる暇はねえ。頼みがある。「惨璃悪」を救って欲しい。

小夜鬼の声。「救う？ ……任せろ。釘バットの楓の頼みを断れる奴がいるかよ。どこにでも馳せ参じるぜい！」

大念 ありがとう、小夜鬼。「小名浜ブラック・スペクター」、「いわき金鹿（みなごろし）レディース」、にも連絡。急いで……。
但峰 楓ちゃん……つか、大念楓様。君は一体何者？」

舞台前方に飛び込んでくるシナモロール【屍南無巻】とマイメロディ【魔威旋律】。
当然、奏も。照明が上手から下手に振り替わる。
スクリーンにラインの映像。リトルツインスターズ【痴盗連星ズ】からのメールだ。

魔威 リトルツインスターズ【痴盗連星ズ】からライン。国道沿いだけじゃなく、海浜公

園周辺にマップが溢れてる……って、何でだ？ まずい、あいつらマップに追われてる！

屍南 （叫ぶ！）ぽんぽんりぽん【梵々裏煩】、フランボアルウルウ【腐乱婆琉琉】！ 双子を助けろ！

バイクの爆音！ 秦の両脇を二台のバイクが走り抜ける。

屍南 でも、このままじゃ、海浜公園に入る前に、あたしら止められる。どうする？

魔威 くっそー、何がどうなってんだよ！ この吊い走行が何で妨害されなきゃいけないんだよ。

屍南 こんな時、楓がいてくれたら……。釘バットの楓なら……。

魔威 集団のケツから一気に加速して、トップに立って、派手な検問突破噛ましてくれるのに……。

秦 来るかもよ。

屍南 なんて言ったんだ、おっさん。

秦 来ちゃうかもよ。釘バットの楓が。

魔威 手前。何知ったような口、聞いてんだあ？

屍南 （ハンドルのスマホを見て、驚いて叫ぶ）魔威旋律、ライン見ろ！

ラインに次々に表示されていく。

いわき金鹿（みなごろし）レディース・如月：金鹿総勢 30 台で「惨璃悪」の前方の検問を攪乱。

小名浜ブラック・スペクター・Kamuy（カムイ）：こっちは総勢 60 台で、国道南下中のマップを妨害中！

魔威 何だよこれ。なんで、いわきの金鹿（みなごろし）の如月や小名浜のカムイが？

後方より爆音。何台もの単車が、超高速で三人の脇を通り過ぎる……。

魔威 （呆然として）あれは……。

屍南 （呆然と前方を見つめ）関東極悪連合・高萩エンペラーだ……。

ラインでの表示。

高萩エンペラー・小夜鬼：ひさしぶりだね。屍南無巻、魔威旋律。（それ的なスタンプ）鬼帝の吊い走行の邪魔立ては誰にもさせねえ。前のマップは任せとけ！（それ的なスタンプ）

屍南 高萩エンペラーの小夜鬼……。

魔威 でも、なんで？

ラインの表示。

マイメロディ：お前らなんで……？

高萩エンペラー・小夜鬼：断れる奴がいるか？ 楓の頼みを……。

屍南 楓……。

魔威 釘バットの楓がいるのか？ この側に、楓がいるのか？

秦 （独りごちるように）なあ、楓ちゃん。誰も忘れちゃいなかったじゃないか、お前
のこと。

照明が上手に振り替わる。

但峰 楓ちゃん、つか、楓様。あなたは一体何者なんですか？ 楓……。 (但峰が言葉を
呑む。大念がハンドルを固く握り締めながら、大粒の涙を流しているからだった)
楓ちゃん……泣いてるの？

大念は、今にもしゃくり上げそうになってしまうのを、ハンドルを握りしめ、歯を
食いしばって耐える。だが、こぼれ落ちる涙を止めることが出来ない。

スクリーンが暗転。舞台後方台上下手に立っている壬生に明かり。

壬生 （ちらりと時計を見て）さてと、警察車両止ちやいますか……。

I Will Not Bow [Acoustic]/Breaking Benjamin が響き始める。

壬生ギアを入れ、アクセルをふかす仕草。と、急ブレーキ！ 上半身ががくんと揺
れる。

鳴らされる幾多のクラクション。「前のレクサス、すぐに車両を移動しなさい」との
スピーカーからの（福島訛りの）声。慌ててドアを開いて外へ飛び出る壬生。両手
をバタバタさせてそれを制する。

壬生 ごめんなさい。突然、私のレクサスが……エンジン大暴走。これって、例の問題と
なったあれかしら？ リコールの……（と、両手を挙げ）待って待って、待って！
銃口降ろす。いい、銃口降ろすの。反ネフィリムテロリストなんかじゃないから。
（胸のバッジを指で示し）弁護士。弁護士よ。そうそう。ねえねえ、誰かこの車を
動かしてくれないかしら。だって、怖くて運転できな一い。（と、しなを作るが）お
い、誰だ？ 今「歳考えろ！」って言った奴。出てこい、刑法 231 条「侮辱罪」で
告発だ！

アルマ （前方を眺めて、周りに聞く）どうしたのかな？ コンボイが止まっちゃったけど
……。何かあったの？ ねえねえ、日本ネフィリム開発の人。ねえってば……。

台詞を吐きつつ、下手から台上中央まで出て来る。

と、アルマの背後に現れる交通課の警官。栃木県警の白いヘルメットを目深に被っている。

棚橋 （サイドウインドウをコツことと叩き）栃木県警（とつぐいけんげい）から応援（おーいん）で参りました真木井司郎（まぐいすろー）です。窓上げで。車の下（すた）がら、煙出でます。爆発（ばくはつ）の危険（きげん）がありますので、早く、逃げで……。

車に乗った日本ネフィリム開発の警備員を引きずり出し、背中を突いて、ケツを蹴り上げて、避難させる。アルマも車外へ放り出されてしまったようだ。警官は車中に手を突っ込むと、無線のマイクを引っ掴み、がなるように喋り始めた。

棚橋 もすもす、先導車ですか？ こつら栃木県警（とつぐいけんげい）から応援（おーいん）で参りました真木井司郎（まぐいすろー）です。マギー司郎ではなく、真木井司郎。真っ直ぐの「真」に、樹木の「木」、井戸の「井」で、真木井（まぐい）。はい。後続車の一台（いつだい）に事故（ずこ）がありまして……いや、だから事故（ずこ）です。その、後続車以外は大丈夫ですので、すのまま、進行（すんこう）してください。よろすぐ。（と、通信を切り、アルマに）逃げで、早く、逃げで……。爆発（ばくはつ）すっから、危ねいがら……。こら、おねいちゃんも！ 早く……。

アルマ （あまりの不自然さに、さすがのアルマロスも気付く）あらまあ、殺戮天使。懲りもせずに、なにかの妨害工作？

棚橋 あれま、ばれでましたか？ ……って、モノマネはもういいか？

アルマ ねえねえ、これで白バイのつもり？ バイクにステッカー貼っただけじゃん。で、煙は発煙筒？ ほんと子供だまし……。

棚橋 そんな子供だましに引っかかる大人もいるんだよ。三億円奪うことはもう出来そうにないけどな。でも、（顎をしゃくって）日本ネフィリム開発の警備員は脱兎の如く逃げ去ったぜ。（と、銃口を向ける）

アルマ 学習能力がないのかなあ、殺戮天使は？ 私を殺すことは出来ないの、アマダスの弾丸では……。

壬生背後からアルマロスの手を取り、手錠をかける。一方の輪は自分の手首にかけられている。

壬生 分かっているわ。だから物理拘束。

棚橋 （もう一方の手に手錠をかけ）物理拘束ダブル。さすがのアルマロスと言えど、俺たち二人をぶら下げて空飛ぶことは出来まい。

アルマ まさか……私を遠ざけて、アマダスの弾丸でサタナイルを撃つ気？

棚橋 ご明察。

アルマ でも、トレーラーはたくさんの警察車両で守られているの。それに、海浜公園の周辺だって何重にも……。

壬生 ねえ、あなたには聞こえない？ 6音ホーンのゴッドファーザーが……。

遠くから聞こえてくる6音ホーンが高らかに鳴らすゴッドファーザー。そして、幾多のバイクの排気音・走行音。

アルマが笑う。何がおかしいのか笑い出す。と、アルマの翼が大きく開き、バサリと一閃。

壬・棚 飛ぶ気、お前？ マジで？

と、目潰し一閃。舞台後方台上の明かりが消え、舞台前方下手へと振り替わる。(って、この瞬間に三人台上でしゃがんで欲しいなあ。このあと映像がてんこ盛りで使われるんで)

魔威 マジでマッポが大混乱じゃん。

屍南 もうすぐ海浜公園だ。この混乱に乗じて、中に……(と、言葉を切り、前方を指差し) あれは？

秦 日本ネフィリム開発の特殊トレーラーが海浜公園に入っていく。あれに続け。

魔威 なんなんだよ。おっさん？ (と、前を向き返り、悲鳴を上げる) やべえ、入り口の検問ゲートが……。

魔威旋律が急ブレーキ！ 後退する。

秦 ブレーキ踏むな、マイメロディ！ フルスロットルで加速だ！

屍南 魔威旋律！ 前を見な。

魔威 (加速しながら) あれは……。あの白いMR2は！ まさか……。

屍南 ほんとひさしぶりだよ、楓……。

照明が下手から上手に振り替わる。

但峰 楓ちゃん！ いや、楓様！ 前方の検問ゲートが閉じていきます。って、なんで加速してるわけ？ ぶつかる……っていうか、マジでぶつかるから！

大念 口閉じろ。舌嚙むぜ。

但峰 と、言いつつ更に加速して、右側のタイヤを中央分離帯に乗り上げさせて……。

ゆっくりとした但峰の状況説明の間に走行音が消え、タイヤが中央分離帯に乗り上げる激突音が聞こえてくる(リバーブ)。ここは、スローモーションな感じで演じてね。ゆっくりと大念が但峰にのしかかるように斜めになっていく。但峰の上にハンドルを握った大念が乗って、90度近い角度にまでいくのが望ましい。

但峰 で、ハンドルを大きく左に切ったら……(タイヤが路面を引っ掻く音) のうわーっ！

これって方輪走行！ タカハシレーシング的なあ？ つーか、マジでえ……。

斜めになっていた二人が、派手なSEとともに、元に直って大きくバウンドする。と、スローモーションとなっていた演技速度が元に戻る。

大念 ゲート通過！ マッポが散った！（声を限りに叫ぶ）屍南無巻、後に続け！
但峰 痛でで、つーか、舌嚙んだ。

照明が上手から下手に振り替わる。

屍南 みんな楓に続け！
魔威 行くぞ！ おうらあ！

バイクの爆音！ 目潰し一閃！
舞台後方台上の袖に樋村が立っている。

秦 ふう、無事侵入！（左手に向けて叫ぶ）樋村！ アザゼルの場所？ 銃弾で示せ！

樋村、無言で銃を撃つと舞台の前っ面でフラッシュ閃光。跳弾の音！

秦 （前方を指差し）そこか！ その瓦礫の間！ シナモロール。トレーラーを追い越して、あの瓦礫に向かえ！

屍南 何でだ？

秦 キティに会わせてやる。

屍南 今なんて言った？

秦 ハローキティに会わせてやる！

バイクの爆音！ 照明が下手から上手に振り替わる。獣の咆吼！

但峰 なになに、今の声？

大念 サタナイル？ サタナイルが叫んだ？

映像。走ってくるトレーラーが突如制動を失い。連結部分をジャックナイフのように落ち曲げながら客席に迫ってくる。と、そのコンテナの背が割れて、轟音とともに、得体の知れない何かが、こちらに向かって飛び出してくる。

獣の咆吼！ ブレーキ音！ 目潰し一閃！

後方の台の下から客席に向け大きなムカデ（の着ぐるみ）が突然飛び出してきた、舞台の前っ面のギリまで出て来るので、お客は大層ビックリする。更に雄叫びを上げて、目を真紅にらんと輝かせながら頭をもたげて身体を痙攣させるもんだか

ら、悲鳴を上げるほどびっくりする。(なお、この着ぐるみの中には滝野が仰向けに入り込んでいる。流れ上、サタナイルの操作はすべて滝野に任されているのだ。書き割りの裏で、複眼の電源のオンオフを担当しているのは、きっと石間に違いない)

魔威 なんだありゃ？
大念 あ、あれが……。
但峰 サタナイル？

全員が呆然と立ちすくむ中、秦が背中に取り付けたシートを投げつけて、巨大なサタナイルの背中に飛び乗る！

秦 シナモロール、サンクス！（サタナイルの頭に銃口を向け、叫ぶ）災いなるかな、裁かれてなお、足掻き続ける者。汝の名はサタナイル！

銃弾を続けざまに撃つが、跳弾の音とともに、すべて跳ね返される。
と、バサリと言う翼の羽ばたき音とともに、舞台後方台上のセンターに立つアルマロス。腕を押さえて唸っている棚橋と壬生。

秦 （驚いて）うわっ、銃弾が全部跳ね返された。
アルマ （手をメガホンのようにして）ダメだね、殺戮天使！ あんたのへなちょこ弾丸はサタナイルの固い鎧に無力だよ。
壬生 ほんとうにここまで飛んできた……。
棚橋 なんて力だ！ つーか、手首もげるかと思った……。
秦 （後方に向けて叫ぶ）アルマロスをこれ以上近づけるな！
棚橋 大丈夫だ！ 石地蔵の魔術！
壬生 なんだそれ？
棚橋 そう叫べば、身体が石地蔵の様に重くなるかなって思ったんだが……。
壬生 単なる希望か？ つーか、こなきじじいがお前の魔法の理想形か？
アルマ （さすがに疲れたらしく、肩で息をし）無理よ。あんたじゃ無理。（手をメガホンのようにして）ねえ、サタナイル！ その下にアザゼルがいるの？

サタナイルがその声に応えるかのように身をよじり、目を光らせて、雄叫びを上げる。と、頭を大地にもぐり込ませようと、地べたにすりつけ始める。

秦 サタナイル、いい子だからもぐり込むな。畜生、させるか！ 楓ちゃん、釘バット！

大念の手には、いつの間にか釘バットが握られていた。大念が腕を振ると、その手からバットが消える。スクリーン映像の中を回転しながら釘バットが飛んで行く。風切り音。そして、バシッというSEとともに秦の手にそれが現れる。秦はサタナイルが土に潜り込めないように、頭の下にそれを突き立てる。

秦 サンキュー、楓ちゃん。サタナイル、もぐり込むなと頼んでるだろう。(拳銃を額に当て叫ぶ) アマダス！ あのなあ、へなちょこ弾だって数撃てば、固い鎧に穴を空けることだって出来る。

そして銃口をサタナイルの頭部に押し当てて、続けざまに銃を撃つ。サタナイルが雄叫びをあげ、頭をもたげる。その勢いで秦がはじき飛ばされそうになる。

秦 水の一滴、岩をも砕く！ 鎧に穴が空いたぞ。あと少し、アマダース……。 (もう、秦は、はあはあである) お腹が空いて、力が出ない。だめだ。弾丸がもう出てこない。ストレスからか、今朝もバナナを半分しか食べれなかった。

壬生 お前、サイゼリヤでドリア食べたんじゃ？

秦 寝不足で食欲なくて、カプチーノ 2 杯だけ……。

棚橋 寝不足って……。

秦 棚橋。朝までお前のバイクの装飾してたからだろうが！ 畜生、ここまで来て……。ここ一番で力が出ない (最後の力を振り絞って叫ぶ) 顔が汚れて力が出ない！

アルマ アンパンマンか？

秦 ジャムおじさん！ (と、天に向かって吼えた後、自らの手に向かって叫ぶ) 樋村、サタナイルの頭の穴がそこから見えるか？ かつてお前に渡したアマダス増量、5 倍も使った特製弾丸を持っているか？ それで撃ち抜け！

樋村 (リボルバーをガチンとはめて、銃口を向けるが) ダメだ。お前に当たる……。

秦 (自らの手に向かって叫ぶ) 樋村、特製弾丸は、また作ってやる。だから撃て……。

樋村 そういうことじゃない。お前に当たると……って聞こえてないか。

バキバキと釘バットが折れそうになる音。

秦 楓ちゃんの釘バットが折れる。早く撃て！

バキンと釘バットが完全に折れる。頭をもたげ、サタナイルが勝利の雄叫びを上げる。と、ストップモーション。舞台全体が逆光となる。

どこからともなく声が聞こえてくる。

「サタナイル……」

落ち着いた、優しい声だった。

アルマ (一本のサスが照らす) アザゼル……。

屍・魔 (下手に明かり) キティ……。

大念 (上手にも明かり) ハローキティ……。

樋村 (一本のサスが照らす) 空っぽのキティ……。

アルマ アザゼル。あの墮天の時。あなたはムカデと化したサタナイルに向けて何かを言った。アザゼル！ あの時あなたはサタナイルの真っ赤な複眼を見つめて何と言った

の？

樋村 迫り来る大波に怯え、身を固くした純鈴抱きしめて、その顔を優しく見つめ、キティはこう囁いた……。

優しい声が聞こえてきた。「天を恨むな。私を恨め」

アルマ （呆然として、力なくその言葉を繰り返す）天を恨むな。私を恨め……。

「大丈夫。もうなにも恐れることはない」

アザゼルの残存思念がそう告げた。

一瞬の沈黙の後、サタナイルが咆吼した。それは、喜びの咆吼か、それとも安堵の、いや、諦念の？ それは尾を引くような悲しみに満ちた叫びのように聞こえなくもなかった。

と、銃声。樋村がアマダス5倍の特製弾丸を撃ち放ったのだ。

サタナイルの頭部が閃光を発生し、砕け散る。

そして、ストップモーション。

思いついたかのように、The Diary of Jane [Acoustic]/Breaking Benjaminが静かに流れだす。

舞台が光で満ちていく。圧倒的な光で持たされる。

誰一人として動かない。

そして、舞台はゆっくりとフェードアウトして、やがて完全なる闇となる。

9. そのスカーフは誰がために

暗転の中、スクリーンに流される映像。檜の板。そこから頭にタオルを乗せた石間と滝野の頭がにゅっと突き出してくる。「総檜露天風呂を楽しむ石間と滝野の図」だ。

【この映像の必要性については意見が分かれることとは思うが……】

石間 やっぱいいのう、総檜の露天風呂は。
滝野 そうすね。
石間 お前、お猪口が空だ。(と、お銚子を手に酒をつぐ)
滝野 おとととと、あざーす。(と、前歩を見て) おっ、2 時 46 分ですよ。んっ、今コッソんとききました？
石間 うん。来たね。
滝野 P 波が来てから、6 秒後……S 波、来まーす。(笑ってるし……)
石間 おお、ちょこっと、ぐらぐらしたね。
二人 かんぱーい！
石間 これで、族議員の先生も、上松建設も、そして石間組も安泰だ！
滝野 でも、これ、地震で揺れてるのか、酔っ払って揺れてる様に感じるのか、良く分かんいですね。おやじ、待ちきれずに早々と呑み始めちゃうから……。
石間 しょうがねえだろ。間が持たなくなったんだから……。とにかく……。
二人 かんぱーい！

台詞言い切り前にノイズが走り、映像がフェードアウトする。

舞台の上に先ほどとほぼ同じ位置で役者が立っている。前シーンと異なるのは、サタナイルが消え去っていることと、アルマロスも消え失せていることだ。

風の音。潮騒……。

樋村 地震を起こすことなく、サタナイルは虚空へと消えた。アザゼルの残存思念とともに……。 (台詞を吐きながら、台上から舞台中央に降りてくる) 消えたのはそれだけではない。あれほどうるさかったパトカーのサイレンも、取り巻いていた警察官の姿もすべて消え去っていた。いつの間にかサタナイルを乗せていたトレーラーの残骸もまたなくなっていた。気付くと、アルマロスもどこかに消えていた。

壬生と棚橋、手錠の先にアルマロスがいらないのに気づき、ちょっとだけ動揺する。

樋村 樽江海浜公園跡地。瓦礫の他にはなにもない海岸で、俺たちはみな立ち尽くしていた。冷たいが心地よい風。そして潮騒。
但峰 夢だったんですかね、すべて……。
棚橋 いや夢じゃないな (台上から降りてくる)
樋村 すべてが夢ではない証拠があった。

壬生 でなければ、すべてが夢に変えられた。ねえ、これがアザゼルの魔法？
樋村 これが夢ではない証拠。それが手の中にある。(手に紫色のスカーフ握られている)
 紫色のスカーフ。純鈴が首に巻いていたスカーフ。アザゼル、いやハローキティの
 スカーフだ。秦……。

 そう言って、スカーフを秦に渡す。

秦 これはお前が見つけた。大切な……。
樋村 (首を横に振り) 大切な思い出は羽ばたいて雲の上に登っていった。
純奈 (舞台後方台上に純奈が立っている) キティさんにそのスカーフを頂いたお礼をま
 だ言っていないわ。
樋村 純奈の代わりに、俺から伝えておいた。
純奈 本当？ 克爾は信用おけないから……。 (台上から降りてきて、樋村の側まで来る)
樋村 …… (純奈の顔を見て、無言でゆっくりと首を横に振る)
秦 そうか。シナモロール。これを君に……。

 屍南無巻がそれを両手で受け取る。魔威旋律が駆け寄ってきて愛おしそうにそれに
 触れる。

屍南 楓。ありがとう。助けてくれて……。
魔威 あたし、信じてたぜ。最後にや楓が助けに来てくれるって……。
大念 (ゆっくりと二人に近づく) 今まで連絡しなかったのは……。
屍南 (首を横に振り、スカーフを握った手を大念に突き出す) 楓のお蔭で、キティに会
 えた。(大念の手を取り、スカーフの上にその手をのせる) さあ、キティに別れを言
 いな。
魔威 どうということだよ！
屍南 キティは空の星になった。魔威旋律はそう言わなかったかい？

 と、屍南無巻がその手を天に向かって力強く振り上げる。その手からは魔法のよう
 に(手品だけど)スカーフが消え失せている。
 上空を見あげる三人。

魔威 スカーフが風にあおられて空に登ってく……。
大念 どこまでも高く、登っていく。
屍南 恨むなら恨めって……空の星になったお前をどうやって恨むんだよ、キティ！
樋村 瓦礫の他にはなにもない海岸で、俺たちは立ち尽くしていた。何時間もそこに立ち
 続けていた。冷たい風が吹き始め、日が沈んでも。夜空に星が現れ始めた。
秦 南の空。オリオン座だ。昇天したアザゼルはオリオン座にいるそうだ。
魔威 アザゼル？
大念 キティのことだよ。

屍南 キティはあそこに行ったのか？ あんな遠くに……。
樋村 瓦礫の他にはなにもない海岸で、俺たちは立ち尽くし、夜空を眺め続けた。言葉も
交わすことなく、時間が過ぎるのも忘れて……。

全員が夜空を、アザゼルが、ハローキティがいるという南中したオリオン座をただ
見続ける。

秦 （息を吐き）ああ、腹減った……。

照明が舞台後方台上に振り替わる。アルマロスと嘉剛が登場する。

嘉剛 ……自身の存在そのものが、仲間を危険にさらす原因になる。天使であろうが人で
あろうが……。だから、アザゼルは孤独を求めた。だが、彼女の背中が、「憧憬の魔
術」が皆を引きつける。どこまで逃げても何者かが着いてくる。幾多の者に慕われ
て、あこがれの対象として祭り上げられる。それゆえ、アザゼルは更なる孤独を求
めた。次なるサタナイルを……。

アルマ 見たくはなかったから……。

嘉剛 アルマロス。お前という存在はどうなのだ？ 護符（タリスマン）の秘術に守られ
しグリゴリよ。すべての魔法を無力とする者よ。お前はお前に対するすべての攻撃
を交わすことが出来る。だが、やがて天はお前からお前以外のすべてを奪うだろう。
お前はそれに気づき始めた。

アルマ 嫌だ。そんなの嫌だ……。

嘉剛 お前は更に気付かねばならないことがある。どうしてお前がそのような魔法を受け
られたのかを。私は、何故オムニコグニション〈全知〉の能力が私自身に与えられ
たのかについて気づき始めている。誰がそれを与えたのかについても……。アルマ
ロス。最強にして最も弱きグリゴリよ。お前はもう気づき始めているはずだ……。

叩き付けるように流れ始める「Unbreakable/Fire flight」（←イントロと最後のと
ころを繋いだショートバージョン）。

石間と滝野も現れ、なんだかんだあった後、登場人物全員が、客席に向かって深々と礼をする。

斯くして、

アンブレイカブル 第二章 -瞼を閉じることで見えてくるもの-
が終わり、

物語は、

最終章 -そして、壊れないはずの〈世界〉が崩壊を開始する-
に引き継がれる。

S/N		
0	理由はともあれ、あの〈前説〉が復活したようだ	15
1	ビールのようにビールじゃない、べんべん	4
2	それじゃまるで東京コミック・ショーだろっ	7
3	夜な夜な聞こえてくる奇怪な笛の音の正体は	7
4	名案はいつもふたつ目に示されるもんだ	7
5	海浜公園にはたくさんの思い出が詰まっている	12
6	目を閉じることで見えてくるもの	9
7	すっかりお忘れのことと思いますが、秦さんが大変なんです	7
8	弾丸で無理なら、釘バットで止めてやる	9
9	そのスカーフは誰がために	3
Total		80